

出会うとうれしくなる
わかると動きたしたくなる

PARC 自由学校 2018

pacific asia
resource center
freedom school



PARCとは？

わたしたちの暮らす社会のこと、世界とのつながり——。一緒に考えてみませんか？

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター (PARC: Pacific Asia Resource Center)は、南と北の人びとが対等・平等に生きることのできる社会をつくることをめざして様々な活動に取り組んでいます。南の国々・人びとの状況や国際的な課題についての情報収集、問題の解決に向けた政策提言活動やキャンペーン、調査研究活動を通じたオルタナティブの提案とともに、雑誌『オルタ』、PARC自由学校、開発教育教材としてのオーディオ・ビジュアル作品、インターネットを通じた情報発信を行なっています。

南と北の人びとが対等・平等に、ともに生きていける関係をつくりだすことと、日本社会が変わることは、別々のことではありません。人びとが国境を越えて出会い、ネットワークを広げ、エンパワーしあっていく、その媒介役となることをPARCはめざしています。

調査研究活動

PARCでは国内外のネットワークを活かして、国境を越えた調査活動を行なっています。これまでに、アジアにおける自由貿易地域研究、日系多国籍企業研究、バナナ・エビ研究、グローバリズム研究などを行いました。自分の足で歩き、自分の目で見て、手でさわって、匂いを嗅ぎ……。ということを基本に、専門家に頼らず自分たちの力で調査する「はだしの研究者」を生み出していくことも目的としています。◇最近のグローバリズム研究：ニューエコノミクス研究会／コンビニ／ブラック企業／鉱物資源の収奪 など



政策提言・キャンペーン

海外/国内のNGOや社会運動と連携し、政府開発援助 (ODA) や貿易、債務問題、貧困削減などの 이슈について、日本政府や国連諸機関、IMF/世界銀行などの国際機関への申し入れや提言を行なっています。現在は特に「環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP)」への参加に対して、反対の立場から政策提言やキャンペーン活動に力を入れています。現在は TPP・RCEP の市民生活への負の影響を明らかにし、是正するためのアクション・ロビイングを展開しています。



オーディオ・ビジュアル (AV) 作品の制作

世界の現実をとらえ、社会や私たちの暮らしを見つめなおす視点を提供する教育教材を制作・販売しています。エビやバナナ、ペットボトルの水、バイオ燃料、パーム油など、身近なモノとグローバル化、コーヒーや債務から考える南北問題、開発や児童労働など、多彩な内容の作品は全国の図書館や学校、開発教育の現場で活用されています。



PARCの会員になって活動を支えてください

PARCは市民のみならずと共に考え活動するNGOです。PARCの活動は、会員の方々の会費と各分野の活動への参加・協力によって支えられています。PARCの理念に賛同いただける方は、ぜひ会員になって一緒に活動していきませんか？

○ PARC会員にはどんな人がいるの？

現在、PARC会員は約420人、皆さんの職業、地域、年齢、活動内容はさまざまです。PARCの趣旨にご賛同いただき、その活動に参加または応援して下さる人ならどなたでも会員になることができます。会員総会でPARCの基本的な活動方針を決めています。

○ PARC会員になると…

- PARC制作DVD・VHS (オーディオ・ビジュアル) を2割引で購入いただけます。 ● PARC自由学校の講座への単発受講が可能になります。
- 海外から届く資料の閲覧が無料となります。 ● PARC会員メーリングリストへの参加ができます。
- PARC関連イベントに会員割引価格で参加できます。 ● 会員総会での議決権をもつことができます。

○ 年会費

一般会員 12,000円 / 夫婦・パートナー会員 18,000円 / 学生会員 8,000円 / 賛助会員 20,000円

○ 日々500円からのマンスリーサポーターも募集しています。詳しくはウェブサイトへ
→ <http://www.parc-jp.org>



社会の学校 Society

クラスNo.		ページ
01	ポピュリズムの光と影—民主主義の敵か、改革の希望か?	6
02	共に生きる社会のつくり方—「相模原障害者殺傷事件」から考える	8
03	沖縄を見つめる—森口豁・映像の世界と基地・独立・自治	10
04	フェイクニュースの時代を生きる	12

世界の学校 World

クラスNo.		ページ
05	グローバル企業を規制する—市民・地域・自治体のチカラ	16
06	食卓から世界を変える—今そこにある危機とオルタナティブ	18
07	奪い合いの経済から支え合いの経済へ：米国アジア系移住労働者の市民連帯	20

環境・暮らしの学校 Environment and Ways of life

クラスNo.		ページ
08	〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培	22
09	竹「採り」物語：ローカルな資源を活かす暮らしを探して	24
10	豆・マメ・まめ!	26

表現・ことばの学校 Creative Activities, Language

クラスNo.		ページ
11	表現することは生きること	30
12	ビオダンサー—あなたとわたしから生まれる〈なにか〉	32
13	武藤一羊の英文精読	34
14	世界のニュースから国際情勢を読み解こう	35
15	ケイトリンの”What's Happening In The World!?”	35

特別講座・ツアー Special courses, Tour

	ページ
ブラジル日本人移民110周年 記録映像作家と見る・歩く・出会う 移民を巡る旅	38
ワンコイン・シネマ・トーク	40
エクアドル・インタグ地方 自然に寄り添うオルタナティブな暮らしづくりを感じる旅	42
アクションツアー沖縄 2018 —平和の祈りを沖縄から	44
あるがままの自分が認められる場所「やまなみ工房」を訪問する旅	46

PARC自由学校へようこそ!



PARC自由学校とは

PARC自由学校は、世界と社会を知り、新たな価値観や活動を生み出すオルタナティブな学びの場として1982年に開講しました。それ以来、アジア、アフリカ、中南米など世界の人の暮らしや社会運動を知るクラス、世界経済の実態や開発を考えるクラス、環境や暮らしのあり方を考えるクラスなど、毎年約30講座を提供してきました。私たちが生きている世界のこと、そしてその世界とつながっている日本社会のことを知りたい。本当に豊かな暮らし方や生き方のヒントが欲しい。自分らしさを表現するための技術を身につけたい。そんな人たちが出会い、講師と共に学びあうのが自由学校です。

新たなビジョンを育み、その実現への一歩を踏み出すきっかけを、自由学校で探してみませんか。



ダンスには縁がなく、講座説明を読んでもわからず、でも気になり「ビオダンサ」を受講。楽しかった！クラスでは言葉を交わさないのに、回を重ねるごとに互いに信頼が生まれ育っていくことを感じました。続けたい人が多く、自主クラスが結成されました。

かおるこさん 女性





農家兼教員をしている者です。「都市で食べる、都市を耕す」を受講し、自身の農業に対する考え方の裾野がかなり広がりました。講座終了後もつながっていける仲間ができるのも、自由学校の魅力ですね。

鴨志田さん 男性



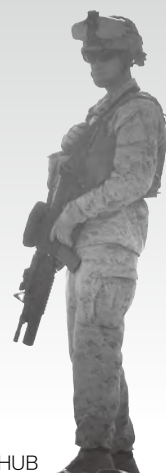
最近まで保険や医療に関して知識がなさすぎることにややもやしていましたが、「医療崩壊」クラスを受講し、少し自分をほっとさせられる知識が得られた気がします。江戸川区のグループホーム訪問は、立ち上げた方たちの苦労と思いがお話や空間から感じられて印象深かったです。平野さん 女性



PARC自由学校 特別トーク・セッション

国際平和と憲法

—国境・世代を超えて。国際NGOからの提起—



© DVIDSHUB

日本は1946年の憲法公布以来、戦争と武力を放棄し、平和主義を貫いてきました。

しかしこの数年で、安保法制や武器輸出解禁をはじめ平和憲法に反する動きが政府によって次々と進められています。安倍政権は「9条改憲」を至上命題とし、自党内での草案まとめを急いでいます。多数を占める与党の力によって、十分な議論もないまま「憲法改正」が発議され、国民投票が行なわれる危険が、まさに目の前に迫っているといえます。

こうした状況の中で、私たち国際NGOは何ができるのでしょうか？

世界各地で、戦争・紛争下での人道支援や難民支援、開発・貧困削減のための現場活動を様々な団体が日々行っています。また平和や環境、人権、経済のグ

ローバリゼーションがもたらす問題について、国際的な連携のもと調査や提言活動を行う団体も多くあります。今年設立45周年を迎えるPARCも、1960年代後半、ベトナム戦争に反対する市民による反戦運動の中から生まれました。以来、反戦・平和は私たちのもっとも原則的な理念であり続けてきました。

こうしたNGOこそが、国際平和という観点から憲法に向き合い、今まで以上に発言をしていく必要があると私たちは考えています。

このトーク・セッションでは、NGOのメンバーと参加者の皆さんで平和や憲法について、また市民活動のあり方や具体的なアクションなども含め、ざっくばらんに話しあいたいと考えています。ぜひご参加ください。

●日時：2018年4月17日(火) 19:00~20:50

●会場：連合会館 2F 203会議室

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11

JR中央線・総武線「御茶ノ水駅」 聖橋口(徒歩5分)

東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」、東京メトロ丸の内線「淡路町」、都営地下鉄新宿線「小川町」各B3出口より徒歩0分

●スピーカー：

谷山博史 (日本国際ボランティアセンター「JVC」代表理事)

渡辺美奈 (アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(war) 事務局長)

野川未央 (特定非営利活動法人APLA 事務局スタッフ)

●参加費：一般 500円 学生無料 ※受付にて学生証をご提示ください

主催・お問い合わせ

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター (PARC)

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F

TEL.03-5209-3455 FAX.03-5209-3453

E-mail : office@parc-jp.org http://www.parc-jp.org/



photo by パルシク

社会の学校

Society

- 01 ポピュリズムの光と影—民主主義の敵か、改革の希望か?
- 02 共に生きる社会のつくり方—「相模原障害者殺傷事件」から考える
- 03 沖縄を見つめる—森口豁・映像の世界と基地・独立・自治
- 04 フェイクニュースの時代を生きる

PARC
自由学校
2018

pacific asia
resource center
freedom school



ポピュリズムの光と影

——民主主義の敵か、改革の希望か？

トランプ大統領の誕生や、英国のEU離脱の原動力として、あるいは、小泉純一郎元総理や橋下徹元大阪市長などに対する批判として、「ポピュリズム」という言葉が多く使われております。しかし、現代のポピュリズムを捉えるためには、安易に「排外主義」「大衆迎合主義」といった批判的な言葉で片付けてしまうのではなく、歴史を追って比較政治学的な視点から考える必要があります。そこで、この連続講座では、そもそもポピュリズムとは一体何なのか、その功罪を冷静に分析していきます。さらに、民主主義を阻む要因としてのポピュリズムからいかにして自由になれるか、オルタナティブな道も議論していきます。

🕒 2018年6月～11月(予定) 🕒 原則として水曜日19:00～21:00 🕒 全9回/定員30人名 🕒 受講料:30,000円

6/20

世界を揺り動かすポピュリズムとは何か

水島治郎 (千葉大学法政経学部 教授)



ポピュリズムについて考える前提として、ポピュリズムとは何を指すのか、なぜ近年拡大しているのか、国による違いはなぜ生じるのかといった基本的な視座を提供したい。

◎主著:『ポピュリズムとは何か—民主主義の敵か、改革の希望か』中公新書 2016/『保守の比較政治学—欧州・日本の保守政党とポピュリズム』岩波書店 2016 ◎参考文献:遠藤乾『欧州複合危機-苦悶するEU、揺れる世界』中公新書 2016/国末憲人『ポピュリズムと欧州動乱—フランスはEU崩壊の引き金を引くのか』講談社+α新書 2017

7/6(金)

日本ではなぜポピュリズムの本質が理解されないのか？

——反グローバリズム運動が示す人びとの「怒りの政治」

柴山桂太 (京都大学 准教授)



自由貿易推進の中で疲弊する地域経済や雇用などを背景としたポピュリズムと反グローバリズムとの関係、そして日本の政治・経済状況の問題点とは。

◎主著:『静かなる大恐慌』集英社新書 2012/『グローバリズム その先の悲劇に備えよ』(共著) 集英社新書 2017

© Susan Adams



7/18

エリート支配からの解放の原動力

——ラテンアメリカの政治と社会運動から

藤田 護 (慶應義塾大学環境情報学部 専任講師)



ラテンアメリカにおける民衆運動と左派政治の躍進にとって、ポピュリズムがどのような役割を果たしたのか、それは欧米を中心とする先進国における動きとどこが異なるのか、その思想的・実践的な違いを紹介。

◎主著:『2003年10月政変から改憲議会へ—ボリビア政治情勢への視点』藤岡美恵子、中野憲志(編)『グローバル化に抵抗するラテンアメリカの先住民』現代企画室 2005/『ボリビアにおける2000年代左派アジェンダの検討—先住民による権力獲得、多層的共存、現状を切り開く思想』村上勇介、遅野井茂雄(編)『現代アンデス諸国の政治変動—ガバナビリティの模索』明石書店 2009

9/19

「橋下現象」から考える政治とマスメディア

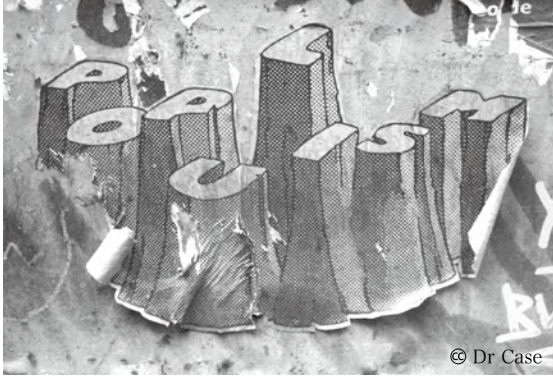
——劇場政治からフェイクニュースへ

松本 創 (ノンフィクションライター)



大阪を席卷し、今なお禍根を残す「橋下現象」を手がかりに、小泉ブームや小池劇場、さらにはトランプ大統領誕生にも通じるマスメディアの問題を考えてみたいと思います。

◎主著:『誰が「橋下徹」をつかったか—大阪都構想とメディアの迷走』140B 2015/『軌道 福知山線脱線事故 JR西日本を変えた闘い』東洋経済新報社 2018(4月刊行予定) ◎参考文献:角岡伸彦、西岡研介、家鋪渡、宝島『殉愛騒動』取材班『百田尚樹「殉愛」の真実』宝島社 2015/大野裕之『チャップリンとヒトラー—メディアとイメージの世界大戦』岩波書店 2015



© Dr Case

10/17

現代ドイツのポピュリズムと排外主義

板橋拓己 (成蹊大学法学部 教授)



本講義では、現代ドイツのポピュリズムと排外主義をとりあげます。とくに、ドイツの歴史的・制度的な特徴を丁寧に説明し、他国のポピュリズムとの異同を明らかにします。

◎主著：『アテナウアー——現代ドイツを創った政治家』中公新書 2014/
『黒いヨーロッパドイツにおけるキリスト教保守派の「西洋（アーベントラント）」主義、1925～1965年』吉田書店 2016

社会を知る学校

世界を知る学校

環境と暮らしの学校

表現・ことばの学校

特別講座ツアー

9月予定

日本型ポピュリズム政治の源泉をたどる

——戦前期における政党政治の失敗と戦争の時代

筒井清忠 (帝京大学文学部 教授)

戦前政治における大衆とポピュリズムの分析を通じて、「日本型ポピュリズム」について、また日本におけるデモクラシーの可能性について論じていただきます。

◎主著：『戦前日本のポピュリズム——日米戦争への道』中公新書 2018/
『帝都復興の時代——関東大震災以後』中公文庫 2017

10/3

メディアと広告

——電通が先導する憲法改正国民投票と東京五輪

本間 龍 (作家)



ポピュリズムを生み出す最大装置であるメディアは、巨額の広告費によって操作される。巨大広告代理店・電通がどのように国民投票と東京五輪に介入しているかを解説します。

◎主著：『原発プロパガンダ』岩波新書 2016 / 『メディアに操作される憲法改正国民投票』岩波ブックレット 2017 ◎参考文献：本間 龍『電通巨大利権——東京五輪で搾取される国民』サイゾー 2017

10月予定

なぜ「私」の声は政治に反映されないの？

——選挙制度の問題と政治参加の可能性

三浦まり (上智大学法学部 教授)



現在の「勝手に決められてしまう政治」が生まれた背景には、選挙制度のあり方と政治参加の不足があります。選挙制度の問題点を理解した上で、政治参加を深め、民主主義の空洞化を食い止める方策を探ります。

◎主著：『私たちの声を議会へ——代表制民主主義の再生』岩波書店 2015 / 『日本の女性議員——どうすれば増えるのか』(編著) 朝日選書 2016

11月予定

草の根からの民主主義をどう実践していくか

福山哲郎 (参議院議員 / 立憲民主党 幹事長)



長期化する安倍政権のもと国民・市民のためでなく永田町の論理で政治が進められる中で、2017年10月に結党して1か月足らずの選挙で1100万票を獲得した立憲民主党が多くの市民からの期待を集めています。市民社会との対話を重視する同党の福山哲郎氏に、草の根からの民主主義の実現について、そのビジョンと具体的な取り組みについてお話しいたします。

© Vitor Marinho



Pacific Asia Resource Center Freedom School

MAGISTÉRIO DE S.C. MAGÉLIA

共に生きる社会のつくり方

——「相模原障害者殺傷事件」から考える

2016年の「相模原障害者殺傷事件」は、日本社会が見て見ぬふりをしようとしてきた問題を浮き彫りにしました。「障害者」、とりわけ知的・精神障害に直面する人びとを隔離することが生み出す社会のひずみが具現化したものともいえるかもしれません。この本質を問うことなく、犯人個人の問題として事件を過去のものへと流してしまうことは第二、第三の殺傷事件を黙認する社会にほかなりません。その一方で障害の有無から発生する亀裂を乗り越え、共に生きる社会をつくる取り組みはこれまでに少なからず行われてきました。それは障害の種類によっても異なる多様なものであり、また障害以外の排除とも戦う活動がいくつも取り組まれてきました。日本社会の隔離・差別・排除の構造に向き合うとともに、「共生社会」に近づくために行われてきた試みについて学び、話し合い、動き出すための講座です。

◎ 2018年6月～11月 ◎ 金曜日 19:00～21:00 あるいは土曜日午後 ◎ 全9回/定員30名 ◎ 受講料: 30,000円

6/9(土) 午後

障害平等研修を通して障害者差別と向き合う

久野研二 (NPO法人障害平等研修フォーラム 代表理事/日本福祉大学 客員教授/国際協力機構 国際協力専門員(社会保障))



障害とは何か、どこにあるのか、私は何ができるのか。障害の社会モデルを基礎に発見型学習の方法論で行う障害平等研修を例に障害を考え行動しましょう。

◎主著:『ピア・ボランティア 世界へピア(仲間)としての障害者の国際協力』現代書館 2012/『障害者差別解消法を現場に生かす 障害平等研修入門(仮)』現代書館 2018年4月刊行予定 ◎参考文献:キャス・ギャレスピー=セルズ、ジェーン・キャンベル『障害者自身が指導する権利・平等と差別を学ぶ研修ガイド』明石書店 2005/オードリー・キング『障がいって、なあに』明石書店 2004



© Jacobo Tarrío

6/29

相模原障害者殺傷事件とはなんだったのか 立岩真也 (立命館大学 教授)



「相模原障害者殺傷事件」から2年。あの事件は社会にどのような影響を与えたのか? 日本社会は進歩しているのか? 後退しているのか?

◎主著:『相模原障害者殺傷事件—優生思想とヘイトクライム』(共著) 青土社 2017/『精神病院体制の終わり—認知症の時代に』青土社 2015

7/13

「死ぬ権利」は本当に必要なのか

——尊厳死を考える

川口有美子 (NPO法人ALS/MNDサポートセンターさくら会 理事)



最近話題の「安楽死」「平穏死」「リビングウィル」の実態は? 「治療選択(治療拒否)」が真の自己決定になり得るには? 終活の前に必要な情報を提供します。

◎主著:『逝かない身体—ALSの日常を生きる』医学書院 2009/『末期を超えて—ALSとすべての難病にかかわる人たちに』青土社 2015 ◎参考文献:立岩真也『唯の生』筑摩書房 2009/立岩真也『良い死』筑摩書房 2008

7/27

障害児も健常児も一緒に学ぶ

——インクルーシブ教育の可能性

一木玲子 (大阪経済法科大学 客員研究員)



皆さんは、子どもの頃障害のある友人と一緒に勉強しましたか？ インクルーシブ教育は国際スタンダードになりつつあります。本講座では、その可能性について考え

ます。
◎主著：『分けないから普通学校のない国—カナダBC州のインクルーシブ教育』(共著) アドバンテージサーバー 2015/『平成22年度障害のある児童生徒の就学形態に関する国政比較調査報告書』(第三章イタリアを執筆) 内閣府 2010 ◎参考文献：一木玲子「合理的配慮の提供を阻害するもの」『教育と文化』81号アドバンテージサーバー 2015/一木玲子「日本はインクルーシブ教育を実現する方向に向かっているのか」『女も男も』No.128 教育労働センター 2016

9/8(土) 14:00~16:30

大規模障害者施設をめぐる議論と歴史

太田修平 (障害者の生活保障を要求する連絡会議)



これまで障害者政策の基本は、施設や病院への隔離収容でありました。障害者権利条約が批准された今日において、ようやく在宅へとシフトされつつあります。施設は障害者にとり、墓場の一步手前の通過点といった社会に染みついた意識が、相模原事件の本質ではないかと考えます。皆さんと大いに議論したいと思います。

◎主著：『強者の政治から弱者の政治へ—日本を変える30の提言』(共著) 第三書館 1990/『日本はこれでいいのかな—私たちがとりまくAMP O』(共著) 第三書館 1983 ◎参考文献：『季刊 福祉労働153号 相模原・障害者施設殺傷事件—何が問われているのか』現代書館 2016/『現代思想2016年10月号 緊急特集—相模原障害者殺傷事件』青土社 2016

9/28

上岡陽江 (ダルク女性ハウス 代表)

社会からの排除にどのように立ち向かうのか？ 薬物依存症からの回復を望む女性たちの取り組みをご紹介します。

◎主著：『ハームリダクションとは何か—薬物問題に対する、あるひとつの社会的選択』(共編著) 中外医学社 2017/『生きのびるための犯罪(みち)』(共著) イースト・プレス 2012

10/12

「生きづらさ」の中の触法障がい者

及川博文 (一般社団法人東京TSネット 代表理事/PandA社会福祉士事務所 代表)



近年、高齢者や障がい者の再犯を防ぐ手立で議論されていますが、なぜ触法行為に至ってしまうのか、これまでの支援をもとに本当に必要な支援は何かを考えていきましょう。

◎主著：『更生支援計画をつくる一罪に問われた障害のある人への支援』(東京TSネット編) 現代人文社 2016

10/26

どんな障害があってもいつでも受け入れる

——みぬま福祉会の取り組み

松本哲 (社会福祉法人みぬま福祉会 総合施設長)



この講義では、障害のある人達との関わりや活動を通して感じた、社会の在り方、私たち自身の存在の意味、人として生まれ、幸せにそして豊かに生きていく事とはどんなことなのかを考えていきます。

◎主著：『その花が咲くとき—障害者施設「川口太陽の家」の仲間たち』サンパティックカフェ 2017

11/9

ディスカッション

「共生社会」実現への道

受講生全員で講義を振り返り、共生社会を実現していくための次の一歩を考えましょう。

©Mario-Mancuso



沖縄を見つめる

——森口豁・映像の世界と基地・独立・自治

「本土復帰」から46年。高江や辺野古での米軍基地・施設の建設強硬に見られるように、「本土」と「沖縄」の力の不均衡はますます大きなものになっています。東京で生まれ育った森口豁さんは、1959年、22歳のとき、カメラを手に那覇に移り住み、「本土の人に本当の沖縄を伝えたい」と、琉球新報の記者としての活動を始めました。その後、日本テレビの特派員となり、米軍支配下の沖縄の人びとの姿をドキュメンタリーで伝え続け、1990年に退社するまで、沖縄をテーマとした28本の作品を制作し、さまざまな立場の人の視線から沖縄の苦悩を伝え続けました。そして、80歳になる現在も沖縄と出会った頃の初志を忘れていません。ひとりのカメラマンが見つめた貴重な映像記録を、森口さんの熱き語りとともにたどります。

本講座は昨年度大好評いただいた「森口豁・沖縄を見つめる映像の世界」講座の続編であり、加えて一般メディアでは伝えられない沖縄の現状をゲスト講師に語っていただき、私たちがそれにどう向き合うかを話し合っていきます。基地引取り運動や琉球独立論などの賛否が分かれる論争的テーマも、取り上げていきます。今回取り上げる番組は、コザ暴動直後の『かたき土を破りて』、知花弾薬庫の化学兵器問題を取り上げた『毒ガスは去ったが』、八重山群島の苦悩を描いた『島ちゃび結歌(ユンタ)』、若き金城実を追った『広場の戦争展』、復帰から10年目の検証『さとうきびの花咲く島』など。森口さんの熱い語りは健在です。沖縄の問題を「他人事」ではなく「自分事」として考えていきませんか？

◎ 2018年5月～10月 ◎ 原則として水曜日 19:00～21:00 ◎ 全10回/定員30名 ◎ 受講料: 36,000円

講師&コーディネーター



森口豁 (ジャーナリスト)

〈沖縄〉を知ることは〈日本〉を知ること——。これはこの60年、ずっと変わらぬ僕の信念です。カメラマンとして、ディレクターとして記録し続けた自作ドキュメンタリーをテキストに〈オキナワ〉を語り合いたい。

◎主著:『だれも沖縄を知らない・27の島の物語』筑摩書房 2005/『子乞い 沖縄孤島の歳月』凱風社 2000

1937年東京生まれ。59年、玉川大学を中退し米軍政下の沖縄に移住。琉球新報記者や日本テレビ「特派員」として活躍。東京転勤後も沖縄に通い続け、ドキュメンタリー番組28本を製作。『ひめゆり戦史・いま問う国家と教育』などで第17回テレビ大賞優秀個人賞などを受賞。過疎と抗う鳩間島のルポ『子乞い・沖縄孤島の歳月』は連続テレビドラマ「瑠璃の島」にもなった。「沖縄を語る一人の会」代表。



永田浩三 (武蔵大学教授/ジャーナリスト)

1954年大阪生まれ。1977年NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クローズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。「表現の不自由展」共同代表。映画『60万回のトライ』共同プロデューサー。

5/30

森口さんの映像とお話し(1)

『かたき土を破りて』

1970年12月、交通事故を起こした米兵の扱いをめぐってコザの市民の怒りが爆発した。コザ暴動である。沖縄にとって米軍基地とはどんな存在なのか。平穏な暮らしはいつになったらやってくるのか。米軍基地で働く労働者の闘いを記録した映像も参考にしながら考える。



6/13

基地引き取り論を考える

ゲスト講師：高橋哲哉（東京大学大学院総合文化研究科教授）



沖縄の基地の「本土」への引き取りを主張する思想と運動は、何を根拠に、何をめざしているのでしょうか。様々な疑問や異論に向き合いながら、明らかにできればと思います。

◎主著：『沖縄の米軍基地—「県外移設」を考える』集英社新書 2015／『犠牲のシステム 福島・沖縄』集英社新書 2012 ◎参考文献：野村浩也『無意識の植民地主義—日本人の米軍基地と沖縄人』御茶の水書房 2005／知念ウシ『シランフーナー（知らんふり）の暴カ—知念ウシ政治発言集』未来社 2013

6/27

森口さんの映像とお話し（2）

『毒ガスは去ったが…』

1969年、知花弾薬庫から、殺人兵器である毒ガスが漏れ出し、県民を恐怖に陥れた。2年後の移送作業で、こんなにも大量の化学兵器が持ち込まれていたことに、住民は驚いた。60年代の核兵器配備の問題も含めて考える。

7/11

かつては保守本流も沖縄の側に立った

ゲスト講師：田中秀征（福山大学経済学部客員教授／元経済企画庁長官）

現在の日本政府の姿勢と異なり、かつての保守本流は沖縄の側に立っていたように見えます。〈かつて〉と〈今〉の間に何があり、今後の展望はいかなるものかお話しいただきます。

◎主著：『保守再生の好機』ロッキング オン 2015／『私の「戦後民主主義」』（共著）岩波書店 2016

7/28（土）午後

森口さんの映像とお話し（3）

『鳥ちゃび結歌・沖縄八重間からの報告』

「鳥ちゃび」とは離島で生きる痛みのこと。「ゆんた」とは農作業などをしながら掛け合いで歌うこと。長い間搾取と差別にあえいできた八重間は。本土復帰後、島の苦しみに追い打ちをかけたのは、物価の高騰と美しい海岸線が観光業者に買い占められる乱開発であった。

8/29

森口さんの映像とお話し（4）

『さとうきびの花咲く島・沖縄この10年』

沖縄は本土復帰によってどう変わったのか、新たな琉球処分ではなかったか、森口豁のレポートによる番組。かつて嘉手納村長として基地と厳しく向き合った古謝得善氏は、沖縄県出納長として口を濁すのだった。今日の辺野古新基地建設問題についても考える。

9/12

琉球独立論のリアリティ

ゲスト講師：松島泰勝（龍谷大学経済学部教授）



スコットランド、カタール・ニヤに見られるように世界において独立運動は現実的な課題となっている。それは琉球も同じである。琉球独立論の歴史的背景、国際法上の根拠、政治経済的な可能性、琉球アイデンティティと独立との関係等、多角的な視点から琉球独立論をリアリティを検証してみたい。

◎主著：『琉球独立論』パジリコ 2014／『琉球独立宣言』講談社文庫 2015 ◎参考文献：松島泰勝『琉球独立への道—植民地主義に抗う琉球ナショナリズム』法律文化社 2012／松島泰勝『琉球独立への経済学—内発的發展と自己決定権による独立』法律文化社 2016

9/26

森口さんの映像とお話し（5）

『広場の戦争展・ある「在日沖縄人」の痛恨行脚』

彫刻家・金城実は当時41歳。日本人である前に沖縄人でありたいと言う。「戦争と人間」という巨大なレリーフを展示する全国行脚を続けていた。沖縄のひとびとの願いとはなにか。本土復帰によってそれは実現できたのか。いま再び語られ始めた「琉球独立論」も含め、金城実の闘いを考える。

10/11（木）

若者の保守化とそれをどう乗り越えるか

ゲスト講師：佐藤 学（沖縄国際大学法学部教授）



日本社会に共通の「若者の保守化」が、沖縄でも進行しています。その帰結は、とりわけ沖縄の将来に悪い影響を及ぼすでしょう。学生相手の日々の悪戦苦闘を材料に、御一緒に考えたいと思います。

◎主著：『沖縄の基地の間違ったうわさ 検証34個の疑問』（共著）岩波書店 2017／『沖縄が問う日本の安全保障』（共著）岩波書店 2015 ◎参考ウェブサイト：「それってどうなの？ 沖縄の基地の話。」<http://okidemaproject.blogspot.jp/>

10/27（土）午後

森口さんの映像とお話し（6）

『ペラウの母は見た！ 沖縄・水俣の8日間』

アジア・太平洋戦争を挟んで大国支配が続いたマイクロネシアのパラオ諸島は、1981年1月「非核憲法」をかかげて独立に踏み出した。しかし、アメリカからは核基地を、日本からは石油コンビナート建設の受け入れを迫られることとなった。人口1万2000人の太平洋の島国、ペラウ共和国のからやってきた3人の女性の「日本学びの旅」から見えてきたニッポンとは……。

フェイクニュースの時代を生きる

米トランプ政権誕生から1年。都合の悪い報道を「フェイクニュース！」と罵倒する大統領の姿が物議をかもし、一方、ネット上を中心に瞬時に広められる事実無根のデマ、文字通りの「フェイクニュース」は、一国の選挙結果をも揺るがすものとして、世界各地で問題になっています。政治家は事実を語っているのか？ マスコミは伝えるべきことを伝えているのか？ 次々と目に飛び込んでくる情報は根拠のあるものなのか？ マスメディアへの不信とフェイクニュースの時代のなかで、確かな事実を手にし、真実を見つけるために、いま私たち何ができるのでしょうか？ 市民による「ファクトチェック（真偽検証）」や「調査報道」の実践を通して、この民主主義の危機を乗り越える道と一緒に探りましょう。

📅 2018年5月～12月 📅 原則として月1回木曜日 📅 全9回/定員30名 📅 受講料：30,000円

5/24 (木) 19:00～21:00

オリエンテーション

メディア不信とフェイクニュース

立岩陽一郎 (調査報道NPOニュースのタネ 編集長)



事実を大事にすることは民主主義の重要な要素でしょう。では、事実を大事にするとは？ 日本のメディアは事実を大事にできたのでしょうか？ 考えます。

◎主著：『世界を変えた非営利調査報道』新聞通信調査会 2018年3月刊行予定 / 『ファクトチェックとは何か』(共著) 岩波書店 2018年4月刊行予定 ◎参考ウェブサイト：Yahoo! ニュース個人 立岩陽一郎「ちょっと愚直ですが…」 <https://news.yahoo.co.jp/byline/tateiwayoichiro/>

6/14 (木) 19:00～21:00

政治家の発言をファクトチェックする

立岩陽一郎 (調査報道NPOニュースのタネ 編集長)

去年行われた総選挙ファクトチェックを題材に、ファクトチェックとは何か、政治家の発言をどう検証するのかを考えます。

◎参考ウェブサイト：「ファクトチェック・イニシアティブ (FIJ)」 <http://fij.info/>

6/28 (木) 19:00～21:00

ファクトチェックは誤報・虚報を〈見える化〉する

楊井人文 (特定非営利活動法人 ファクトチェック・イニシアティブ 理事兼事務局長)



既存メディアにもネット上の情報にも様々な誤報・虚報がたくさんあります。誤った情報に惑わされにくい社会を築くためにどうすればよいか、一緒に考えましょう。

◎主著：『ファクトチェックとは何か』(共著) 岩波書店 2018年4月刊行予定 ◎参考ウェブサイト：Yahoo! ニュース個人 楊井人文「ファクトチェック・レポート」 <http://bylines.news.yahoo.co.jp/yanaihito/fumi/> / 「マスコミ誤報検証サイト GoHoo」 <http://gohoo.org/>

7/26 (木) 19:00～21:00

世界を覆うメディア不信

——共通の課題、国ごとの課題

林 香里 (東京大学大学院情報学環 教授)



いまなぜ世界中で「メディア不信」が話題になっているか、だれがその「不信」を語っているか、それがどのような帰結を生みつつあるのか。ドイツ、英国、米国、日本の事例を検証し、みなさんとともにマスメディアの現状を自分たちの問題として考えていきたいと思ひます。

◎主著：『メディア不信—何が問われているのか』岩波新書 2017





© Joe

8/30 (木) 19:00~21:00

映像をファクトチェックする

永田浩三 (武蔵大学社会学部 教授)



イメージを喚起したり共有するうえで、テレビやネットの世界での映像の力は大きい。しかし、時には映像が一人歩きしたり、真実からかけ離れてしまうことも起きています。沖縄の基地問題を扱ったフェイク番組、シリア内戦下での謎のブロッカー事件の顛末など、いくつかのケースをもとに、なぜフェイクな映像が蔓延するのか、われわれはそれらとどう付き合えばいいのかを考えます。(講座では、なるべくホットなテーマを扱いたいと思います。)

◎主著:『ヒロシマを伝える一詩人・四國五郎と原爆の表現者たち』WAVE出版 2016/『NHKと政治権力一番組改変事件当事者の証言』岩波現代文庫 2014

9/27 (木) 19:00~21:00

政治資金収支報告書を読む

——NPOメディアと市民が変える「政治とカネ」

立岩陽一郎 (調査報道NPOニュースのタネ 編集長)

「政治とカネ」は最大のスキャンダルと言ってよいでしょう。政治資金収支報告書を読み込むことで政治の透明性、市民の役割、調査報道とは何かなどについて考えます。

◎参考ウェブサイト:「公益財団法人 政治資金センター」<http://openpolitics.or.jp/>

10/25 (木) 19:00~21:00

NPOメディアで目指す探査ジャーナリズムとジャーナリスト養成



渡辺 周 (ワセダクロニクル 編集長)

誰もが情報発信できる時代だからこそ、必要とされるプロのジャーナリストとは? 共に考えましょう。

◎主著:『プロメテウスの罠 3, 6』(共著) 学研パブリッシング 2013, 2014/『探査ジャーナリズムとNGOとの協働』(共著) 彩流社 2017 ◎参考文献:『花田達朗ジャーナリズムコレクション第2巻 ジャーナリズムの実践—主体・活動と倫理・教育2』彩流社 2018

11/29 (木) 19:00~21:00

なぜ官邸会見に臨み続けるのか

——暴走する政権と忖度するメディア

望月衣塑子 (東京新聞社会部 記者)



2017年6月6日から、社会部に身を置きながらも官房長官会見に出続けています。なぜ、会見に出続けるのか、その動機と会見から浮かび上がってくる記者クラブ制度、メディアのあり方について話します。

◎主著:『THE 独裁者—一国難を呼ぶ男! 安倍晋三』(共著) KKベストセラーズ 2018/『追及—権力の暴走を食い止める』(共著) 光文社 2018 ◎参考文献:望月衣塑子『武器輸出と日本企業』角川新書 2016/鉄筆編『日本国憲法—9条に込められた魂』鉄筆文庫 2016

12/20 (木) 19:00~21:00

ディスカッション

送り手/受けての枠組みを超えて

立岩陽一郎 (調査報道NPOニュースのタネ 編集長)

永田浩三 (武蔵大学社会学部 教授)

参加者全員で議論して過去8回のセッションを総括します。日本のメディアを変えていくためにジャーナリストと市民がすべきことは何か、提言をまとめます。

© Ashley



Nacisa Aka Resource Center, Faculty of Education, Waseda University

全国自由学校



自由学校は学びの草の根ネットワークです。札幌・名古屋・京都・岡山・福岡に、それぞれの地域に根差した個性的な自由学校が開講しています。また「自由学校」と名乗ることがなくても、地域で市民のための学びの場を提供する取り組みは全国に多数あります。そのいくつかをご紹介します。

■さっぽろ自由学校「遊」

札幌に拠点を置く「市民がつくる、市民の学びの場」です。2018年度前期には、「1968年から50年～その『間い』を今に」、「市民がつくる平和～核兵器禁止条約を力に」、「アイヌ民族に伝わるリムセ（踊り）」で学ぶ北海道の自然と世界観など、多彩な講座を開講予定です。1回毎の参加も可能ですので、札幌においでの際にはお気軽にお立ち寄りください。

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目
愛生館ビル5階501
TEL : 011-252-6752 FAX : 011-252-6751
E-mail : syu@sapporoyu.org
<http://sapporoyu.org/>
<https://www.facebook.com/sapporoyu>

■八王子市民のがっこう「まなび・つなぐ広場」

「知る一つながるー学ぶー動き出す 未来の人たちに手渡せる社会を選びとろう」のキャッチフレーズのもと、様々なテーマの講座やワークショップを開催しています。「豊かさってなんだろう?」「『フクシマ』を忘れない連続講座」「持続可能な地域を描くマップづくり」「いちから考える「けんぼう」のこと」「宮澤賢治の語り塾」…等々。市民有志の持ち寄り企画・運営する学習団体です。いつでも参加歓迎！お気軽にご連絡ください。

〒192-0082 八王子市東町3-4
アミダステーション気付
TEL : 070-5567-0168 FAX : 020-4624-2381
E-mail : manabi.tsunagu@gmail.com
<https://www.facebook.com/843kozapage/?ref=bookmarks>
<http://www.gakkou.org>

■あどぼの学校ぎふ

京都、名古屋、岐阜のNPO/NGO関係者と協働し、あどぼの学校運営委員会を組織し、アドボカシーの担い手育成講座である「あどぼの学校」の実施、ならびに各地域のアドボカシー研究・分析を行っています。今後はアドボカシープラットフォームの設立、あどぼの学校のローカル版の実施・全国展開などに取り組んでいきます。

〒503-2124 岐阜県不破郡垂井町宮代1794番地の1
フェアトレードショップ&地産地消 みずのわ内
TEL : 0584-23-3010 FAX : 0584-84-8767
E-mail : info@sento-tarui.org
(特定非営利活動法人 泉京・垂井)
<https://www.facebook.com/advono/>
<http://adobono.strikingly.com/>

〈他にもある全国の自由学校〉

■なごや自由学校 (現在休憩中)

〒488-0801 愛知県尾張旭市東大道町原田68
愛知聖ルカセンター気付
TEL : 0561-53-8937 FAX : 0561-52-7657
E-mail : alc.chubu@nssk.org

■おかやま自由学校そら

TEL : 080-3873-5626
E-mail : soranohajimari@gmail.com
Facebook: 「おかやま自由学校そら」

■京都自由学校

〒600-8127 京都府京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅
湊町83-1 ひと・まち交流館 市民活動総合センター内 メー
ルボックス No.45
E-mail : office@kyoto-fs.org

■PP21 ふくおか自由学校

〒815-0037 福岡市南区玉川1-1 6 鍼灸院えんあん内
TEL : 090-7157-1873
E-mail : ohyamayairochou@yahoo.co.jp
<http://fukuokafreeschool.web.fc2.com/>



世界の学校

World

- 05 グローバル企業を規制する—市民・地域・自治体のチカラ^{コントロール}
- 06 食卓から世界を変える—今そこにある危機とオルタナティブ
- 07 奪い合いの経済から支え合いの経済へ：米国アジア系移住労働者の市民連帯

PARC
自由学校
2018

pacific asia
resource center
freedom school



グローバル企業を規制する

——市民・地域・自治体のチカラ

世界中にサプライ・チェーンをつくり、自由な投資や経済活動を展開するグローバル企業。中には一国の政府の年間予算をはるかに超える売上を持つ企業もあります。一方、タックス・ヘイブン（租税回避）や、途上国の環境破壊や人権侵害を引き起こす投資、また貿易交渉での強力なロビイ活動やメディアの支配など、グローバル企業の問題点は国際市民社会から批判されています。利潤追求は企業の原理ですが、環境や人権、人びとの暮らしを犠牲にしつつ得る行き過ぎた利潤は、何らかの法やルールの下で規制されるべきだと言えるでしょう。このクラスでは、世界の様々な国や地域で始まっている取り組み、特に条例や法律・規制、条約によって企業の行動を正す事例を学びます。「自由貿易 vs 保護主義」という二項対立から抜け、生活基盤としてのコミュニティにとって必要なルールをつくり、持続可能な社会を構築するために何が必要なのか、グローバル企業の巧罪をふまえつつ、日本でも実践できることを皆さんで考えましょう。

◎ 2018年6月～11月 ◎ 隔週金曜日 19:00～21:00 ◎ 全10回／定員30名 ◎ 受講料：32,000円

6/22

グローバル企業はなぜ巨大化してきたのか

——米国の通商戦略と自由貿易協定の現在

所 康弘 (明治大学商学部 准教授)



米国の1980年代以降の通商戦略の過程を振り返りつつ、そもそもNAFTAとは何か？ トランプ政権はNAFTAのどこを問題にしているのか？ NAFTAと多国籍企業の関係とは？をみていきます。

◎主著：『米州の貿易・開発と地域統合—新自由主義とポスト新自由主義を巡る相克』法律文化社 2017 / 『北米地域統合と途上国経済—NAFTA・多国籍企業・地域経済』西田書店 2009 ◎参考文献：金成隆『ルポ トランプ王国—もう一つのアメリカに行く』岩波新書 2017 / J.D. ヴァンス著、関根光宏・山田文訳『ヒルビリー・エレジー—アメリカの繁栄から取り残された白人たち』光文社 2017

7/6

化石燃料、原発、武器製造からの投資撤退(ダイベストメント)

——何が企業の行動原理を変えているのか

夫馬賢治 (株式会社ニューラル 代表取締役社長)



欧米中心に、以前は反目していた投資家とNGOが連携し、企業に長期経営を迫る動きが出てきています。その一つの例が化石燃料ダイベストメントです。ダイベストメントを理解するためには、金融と環境の双方を理解する必要があります。立場の異なる投資家とNGOはどのように連携できているのか。海外の事例をもとに、日本への示唆を探っていきます。

◎参考ウェブサイト：株式会社ニューラル <http://neural.co.jp/>

7/20

水道民営化から再公営化を勝ち取った地域のカ

——パリ、スペイン、ジャカルタの事例から

岸本聡子 (トランスナショナル研究所 経済的公正とオルタナティブ プログラムコーディネーター)



生活に必須である水道サービス。世界では1990年代以降、先進国・途上国を問わず民営化が進んできました。しかしこの10年で、住民が地方議会を動かした末「再公営化」される自治体が急増中。その理由と具体的取り組みをお話します。イタリア・トリノ市やスペイン・バルセロナ市など最新情報もお伝えします。

◎主著："Reclaiming Public Services : How cities and citizens are turning back privatization" June 2017, Transnational Institute, 日本語版抄訳レポート『公共サービスを取り戻す：民営化に自治体、市民がいかに立ち向かったか』https://www.tni.org/files/publication-downloads/rps_ja_web.pdf ◎参考文献：トランスナショナル研究所、コーポレートヨーロッパオプザバトリー編集、佐久間智子訳『世界の〈水道民営化〉の実態—新たな公共水道をめざして』作品社 2007

8/3

“ギグエコノミー”の正体

——公正な社会のために

川上資人 (弁護士/交通の安全と労働を考える市民会議/日本労働弁護団/東京共同法律事務所)



政府は、「シェアリングエコノミー」という名の下に、副業・兼業を推奨し、雇用によらない働き方を推進しようとしています。しかし、海外ではその労働実態について「まったくシェアではない」という指摘がなされ、ギグエコノミーなどと呼ばれています。ICT（情報通信技術）により働き方が多様化する中、公正な社会の実現のために何が必要なのか、皆様とともに考えられればと思います。

◎参考文献：川上資人『「ライドシェア」問題とは何か』（『季刊・労働者の権利』317号（2016年10月発行）日本労働弁護団/川上資人「ワーパライツの労働実態について」（『季刊・労働者の権利』322号（2018年1月発行）/週刊金曜日2018年2月2日号（第1170号）特集「シェアリングエコノミー その裏で起きていること」

市民民主主義をすすめる ソウル市と韓国社会運動

白石 孝 (特定非営利活動法人 官製ワーキングプア研究会 理事長)



市民、個人・小零細企業、協働自治に根ざした政治、経済、労働政策について、そして市民民主主義を自治体でどう実施しているかをお話します。さらに、人権思想に貫かれた政策の一貫性について、具体例を紹介しながらお話します。

◎主著：『止めよう！アペノリスクー市民監視五本の矢』（共著）樹花舎 2016／『なくそう！官製ワーキングプア』（共著）日本評論社 2010 ◎参考文献：白石孝『ソウルの市民民主主義—日本の政治を変えるために』コモンズ 2018

種子を巡る攻防

—北海道など地域と世界の動きを追って

久田徳二 (ジャーナリスト/元北海道新聞 編集委員/北海道大学 客員教授)



UPOV 条約-遺伝資源条約-種子法廃止の位置関係。代替法や条例の意義。農家の権利はく奪とそれへの抵抗。「食料主権」「持続可能型社会」の視点から考えます。

◎主著：『北海道の守り方—グローバル化という〈経済戦争〉に抗する10の戦略』（編著）寿郎社 2015／『トランプ新政権とメガ協定の行方』北海道農業ジャーナリストの会 2017 ◎参考文献：西川芳昭『種子が消えれば あなたも消える—共有か独占か』コモンズ 2017／野口勲『タネが危ない』日本経済新聞出版社 2011

ビジネスに人権をどう埋め込むか

—企業の行動を変えるために市民社会ができること

高橋宗瑠 (Business & Human Rights Resource Centre (ビジネス・人権資料センター) 日本代表)



企業が尊重しなければならない「人権」とは？それは、いわゆるCSRとどう違うのか？ 国際的なトレンドを考えながら、市民社会に何ができるのかを考えたいと思います。

◎主著：『パレスチナ人は苦しみ続ける—なぜ国連は解決できないのか』現代人文社 2015 ◎監訳書：マイケル・フリーマン著『コンセプトとしての人権—その多角的考察』現代人文社 2016 ◎参考文献：『ビジネスと人権に関する指導原則』ヒューライツ大阪作成和訳 2011 http://www.unic.or.jp/texts_audiovisual/resolutions_reports/hr_council/regular_session/3404/



企業vs国家の巨額裁判!?

—投資家対国家紛争メカニズム (ISDS)への抵抗と対案

内田聖子 (PARC 共同代表)



貿易や投資の自由化が進む中、企業が国家を提訴できるISDSが途上国・先進国問わず脅威となっています。TPPなど多くの協定に含まれるISDSを国際市民社会は「民主主義を脅かす大企業のための不公正なツール」と批判、その撤廃を求め、EUやインド、中国は代替案を提示しています。国の法的主権外でなされる「裁判」の問題点と、環境や人権、貧困などの課題と市場経済の相克を考えます。

◎主著：『自由貿易は私たちを幸せにするのか？』（共編著）コモンズ 2017／『徹底解剖 国家戦略特区 私たちの暮らしはどうなる？』（共編著）コモンズ 2014

暴走するマネー資本主義を規制する

—グローバル・タックスの可能性

上村雄彦 (横浜市立大学大学院国際総合科学群 教授)



巨大化する多国籍企業の陰には、タックス・ヘイブン（租税回避）があります。大企業が得る富にグローバル・タックスをかけ、地球規模の貧困削減や環境問題の解決の資金に充てることがすでに国際的に検討されています。主に欧州での様々な取り組みをご紹介します。

◎主著：『不平等をめぐる戦争—グローバル税制は可能か』集英社新書 2016／『世界の富を再分配する30の方法—グローバル・タックスが世界を変える』（編著）合同出版 2016 ◎参考文献：上村雄彦『グローバル・タックスの可能性—持続可能な福祉社会のガヴァナンスをめざして』ミネルヴァ書房 2009／志賀櫻『タックス・ヘイブン—逃げていく税金』岩波新書 2013

日本の自治体でできること

—地域振興条例、公契約条例で地域を活性化する

岡田知弘 (京都大学大学院経済学研究科 教授)



グローバル化の嵐のなかで、地域の中小企業や農家を第一にした地域経済政策を行う自治体が増えてきました。その歴史的意義と展望を考えてみたいと思います。

◎主著：『地域づくりの経済学入門—地域内再投資力論』自治体研究社 2005／『入門 現代日本の経済政策』（共編著）法律文化社 2016 ◎参考文献：岡田知弘（共編著）『TPP・FTAと公共政策の変質—問われる国民主権、地方自治、公共サービス』自治体研究社 2017／岡田知弘『増補版 中小企業振興条例で地域をつくる—地域内再投資力と自治体政策』（共著）自治体研究社 2013

食卓から世界を変える

——今ここにある危機とオルタナティブ

おいしくて安全なものを食べると幸せな気持ちになれます。でも、それが誰かの犠牲の上にできていることを知ればどうでしょう。残念ながら私たちの食のシステムは〈いま〉を生きる誰かの犠牲だけでなく将来世代が同じものを食べられないシステムへと大幅に作り替えられています。

あなたにとって大切な一品は何ですか？ その一品は20年後、50年後、100年後に食べられるのでしょうか？ 年々変わりゆく農業の社会風景に対して、世界では「アグロエコロジー」、「小規模・家族農家」などを標語に多くの農家と消費者が持続可能な農と食を取り戻し、維持するための取り組みをしています。先祖から脈々とつながる農の文化の守り手たち、新たな農文化を創り出す若手活動家、一粒の種子に未来をかける人びと語り、あなたも未来に食卓を残す「フードセーバー」を目指しませんか？

📅 2018年5月～11月 📅 隔週火曜日 19:00～21:00 📅 全11回／定員30名 📅 受講料：35,000円

※海外から参加の講師はテレビ電話での講演になります。出かける回は別途現地への交通費・宿泊費などがかかります。

5/29

オリエンテーション

わたしとみんなの食べ物語

ファシリテーター：八木亜紀子（開発教育協会 職員／PARC 理事）



食や農のこと、どんなことが気になっている？ 受講生のみんに聞いてみたいことや話しあってみたいことは？ 受講生同士で話しあいながら、お互いのことを知り、興味や関心を共有します。

6/12

「アグロエコロジー」とは何か？

印鑰智哉（日本の種子を守る会 事務局アドバイザー）



アグロエコロジーが学問、実践、社会運動として世界の食と農を変えている。単に農業運動に留まらず、その影響範囲は社会全体に、さらに世界全体に広がりつつある。その背景と意義について考える。

◎参考ウェブサイト：印鑰智哉のブログ <http://blog.rederio.jp/>

6/26

種子：一粒から広がる無限の可能性と「地球市民皆農」

斎藤博嗣（一反百姓「じねん堂」／SFFNJ 呼びかけ人）



「タネ」は、食と農、農と環境、空と大地、自然と人、過去と未来をつなぐ。ほんの一握りの人びとが独占しようとする「種子」の問題は、農と食にとどまらず、病める世界経済の表れで、それは、最も貧しい人々にさらなる犠牲を強いる。私たちは、ただ一つの土地「地球」を共有しているのだ。そこには小規模・家族農業の世界があり、あらゆる色彩のタネがあふれている。支配から独立して「よく生きる」地球市民のあり方とは…？ 一粒一粒の種蒔きと種採りからはじめる暮らし。小さな田畑で、自らの手足で自給し、周りの自然と調和（自足）する、「一反百姓」の実践を通し、四季の巡りの中に身体を通じて感じることを、百姓みずからの言葉でお話しします。



Photo by Icaro Cooke Vieira/CIFOR

7/10

日本の小規模・家族農家の実情



大野和興 (農業ジャーナリスト)

日本で長らく本来の農をつないできた小規模・家族農家の実情と消費・流通の課題を考えましょう。

7/22 (日)

三重県伊賀市を訪ねる

農と教育と実践と：愛農会〈愛農学園・大学講座〉を訪問

村上真平 (愛農会 代表)

日本の中で持続可能な農の教育現場を維持するとともに世界の農民運動ともつながる愛農会の現場を訪問し、お話を伺います。

7/31

「家族農家の10年」がもたらす農の新たな革命

関根佳恵 (愛知学院大学 准教授 / SFFNJ 呼びかけ人代表)



国連が「家族農家の10年」を設置したことの意味と、FAOや世界食料保障委員会などの国際機関が目指す革新的方向性について、現地からお話しします。

10/2 (予定)

世界の食の運動

——それは経済・社会そのものを変革する運動

Judith Hitchman (URGENCI / 交渉中)



食の運動とは消費者だけでできる運動ではなく、農家だけでできる運動でもない。それぞれの権利と尊厳を守る活動であるとともに、地域・国家・そして世界の経済そのものを見直さなければならない運動へと展開していく。そのグローバルなダイナミズムを紹介しします。



© Hajime Nakano

10/16 (予定)

ブラジル：小規模農家と連帯するネットワークが水源を救う

Daniel Tygel (ベドラブランカ自然保護区支援連合 事務局長)



ブラジル・サンパウロ州の小さな町で水源林が脅かされようとしたときに地域の労働組合、環境団体、人権団体、消費者団体、生産者組合、そして全国的に活動する環境・人権NGOが集まったとき、そこから生まれた抵抗運動はアグロエコロジーに基づく生産と消費のネットワーク、そして流域下流の都市と水源林付近の農村のネットワークを作る運動だった。各種民衆運動がアグロエコロジーをキーワードに合流し、運動を展開する様をご紹介いただく。

10/30 (予定)

中国：小規模農家と消費者の連帯が地域に食の安全を取り戻す

Shi Yan (Shared Harvest / 交渉中)

中国で失われてしまった食への信頼を取り戻すために小規模の提携ネットワークが次々と作られていく。それは食の安全だけでなく地域の食料主権を取り戻す運動にほかならない。

11/10-11 泊2日合宿

千葉県成田市を訪ねる

自分の手で作る食糧システム

——自給農園ミルパを訪れる

石井恒司・伊藤文美 (自給農園ミルパ)

何よりも自分の手を動かしてみよう。食べ物を育てることから考えるこれからの食糧システム。



11/27

手に「食」持寄り交流会

——自分が未来に残したい一食を持ち寄ろう

ファシリテーター：ソーヤー海 (共生革命家)



一人一品手作りで持ち寄ろう。そしてその一品に込めた物語を共有し、そこから新たな食の運動をみんなで作っていきましょう。

奪い合いの経済から支え合いの経済へ

——米国アジア系移住労働者らの市民連帯


「白人以外の移民はお断り」。事実上そのような発言を繰り返すトランプ政権下の米国で、移住者への制度的風当りはいつになく強いものになっています。その一方で、努力を惜みず、夢をもって米国へと渡ってきた力強い移住労働者らを支えるための市民連帯は強固な社会運動として発展を示しています。なかでも「ドリーマーズ」と呼ばれる若者らを支援する声は連邦政府の機能を停止させることさえ辞さない全国運動へと展開されています。そして新旧の連帯経済運動の観点から見ても、あらゆる制度から見放されようとする移住者を支えるための草の根の経済運動はそれを抜きには米国の連帯経済を語れないほどの合流をはたしています。特にアジア系移住者の間では国や言語を超えたネットワークになっており、大きなうねりをつくりだしています。その現在進行形の潮流を現地的心声を聞きながらつかんでみましょう。

◎ 2018年6月～12月 ◎ 月1回月曜日 19:00～21:00 ◎ 全6回/定員30名 ◎ 受講料: 20,000円

※海外から参加の講師はテレビ電話での講演になります。

※本講座は「社会的企業研究会」との共催講座になります。同会員の方は社会的企業研究会へお申込みください。

6/11

オリエンテーション 

米国は今も「移民の国」と言えるのか？

明戸隆浩 (関東学院大学他 非常勤講師) × 松元千枝 (労働ジャーナリスト)



「MAGA」、「DACA」、「H1-B」、「グリーンカード」、「市民権」、「ICE」、「サンクチュアリシティ」。移住労働者の視点から近代米国社会を理解するためにいまさら聞けないキーワードを軸に現代の移民を巡る世相をご紹介します。

7/9

今の米国で移住労働者として暮らすことの意味

Yvonn Yen Liu (Solidarity Research)



移住労働者として、「二世」として暮らしていくということはどのようなことを意味するのか？ 米国での移住者支援活動の中で日常的に直面する人生の岐路についてお話しさせていただきます。

9/10

ビザと就労と労働者協同組合

Soyun Park (Micro Business Network/ 予定)

就労ビザがなければ滞在は許されない。働くことを示さなければ就労ビザは出ない。就労ビザなくして働くことは強制退去のリスクと隣り合わせ。移住労働者のために安心して働く場はどのように作れるのか？

10/22

難民らの自立的協同組合: Refugee Coop

Nancy Dung Nguyen (Vietlead / 予定)



難民としての在留資格は得られても社会保障はほとんどない。そんな中、当事者たちが支え合うための難民協同組合が作られた。

11/12

連帯経済チャイナタウン

Mike Leung (Worker Coop Federal Credit Union / 予定)



古くから存在を確立してきたチャイナタウンの移住労働者たち。その人びとが直面する現代的課題と連帯経済ネットワークとの新たな連携をご紹介します。

12/10

対談 

日本の移住労働者と連帯経済

鳥井一平 (移住と連帯する全国ネットワーク) × 相良孝雄 (協同総合研究所)

欧米では移住者と連帯した草の根の経済活動が連帯経済の一つの大きな柱になっているが、日本ではどうなのか？ 移住者を支えてきた活動家と連帯経済活動を担ってきた活動家の対談で考えます。

環境・暮らしの学校

Environment and Ways of life

- 08 〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培
- 09 竹「採り」物語：ローカルな資源を活かす暮らしを探して
- 10 豆・マメ・まめ!

PARC
自由学校
2018

pacific asia
resource center
freedom school



〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培

固定種・在来種の種採り(自家採種)を基本とし、自然や土の力を生かした持続可能な無肥料自然栽培を講義形式で学ぶクラスです。無肥料自然栽培は、特別な技術ではありません。正しい知識と情熱で、正確に行うことで結果が出ます。また、作業の一つひとつの意味を理解することで確かな技術へとつながり、農と長く付き合う下地となるでしょう。無肥料自然栽培の基本を、7回の座学と3回の畑訪問で、この道15年のベテラン講師に学びますので、初心者でも大丈夫!

栽培方法を問わず、プランターでのベランダ菜園、家庭菜園、畑づくりに活用できる基礎的な講座内容です。播種から採種まで、いのちのサイクルを感じる自然栽培をはじめてみませんか?

📅 2018年5月～2018年12月 📍 原則として木曜日19:00～21:00 📅 全10回/定員30名 📍 受講料: 38,000円
※出かける回は現地への交通費などが別途かかります。



講師: 関野幸生 (関野農園代表/無肥料自然栽培の普及団体nico会長)

無肥料自然栽培を始めて15年目。無肥料自然栽培の普及のため各地で講演活動を行なう。『固定種野菜の種と育て方』を飯能市の野口種苗研究所、野口勲氏と共著にて創森社より出版。

◎主著:『固定種野菜の種と育て方』(共著)創森社 2012 ◎参考文献:伊達 昇(監修)『野菜つくりと施肥』農文協 1983/ミシェル・ファントン、ジュード・ファントン(共著)自家採種ハンドブック出版委員会(訳)『自家採種ハンドブック「たねとりくらぶ」を始めよう』現代書館 2002

5/17

オリエンテーション

現代の日本における食や農業の問題は、我々のとても身近なところに多く存在しています。そこから紐解き、注目され始めた無肥料自然栽培のお話をします。

5/26(土)

埼玉県児玉郡を訪ねる

自然の力を引き出す農業・橋本農園の取り組み



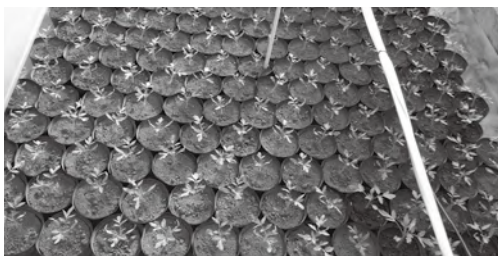
橋本成正 (橋本農園)

農業を通じて気づいたこと、意識が作物に与える影響とは。

自然界の循環、法則を理解して上手に活用することについてお話します。



収穫したてのみやま小かぶ



種採りを続けたアロイトマトの苗

6/7

夏野菜の種蒔きと育苗

水やり3年、苗半作などとよく言います。それほどまでに苗の生育が後の生育に影響するということです。その育苗の基本をお話しします。




採種用の黒田五寸人参の花

11/8

自家採種における他品種間の交雑対策と作物ごとの採取方法

自家採種で最も問題になる交雑は、ちょっとしたコツで防ぐことができます。また、選抜した完熟果実から種を採り出す作業のお話もさせていただきます。

12/2(日) 14:00~17:00

埼玉県富士見市を訪ねる 

関野農園 冬の畑見学

無肥料自然栽培の冬野菜の畑見学です。冬の畑は主に二年草作物が占めます。その場で生で野菜を味見し、一般の品種(F1)と固定種の味の差を体験していただきます。

12/6

自家採種と連作のお話


無肥料自然栽培はただ安全でおいしい野菜を作ることを目的にしていません。持続可能な農業や暮らしとは何か! なぜ今無肥料自然栽培なのか! 最後にまとめたと思います。

7/5

発芽後、定植後の作物管理

一般的な農業関係の本に書かれている栽培方法は、施肥(肥料を施すこと)を前提に書かれています。決してそれらが間違いではないのですが、その通りに行なうと作物の生育を悪くすることにつながります。正しい基礎知識で無施肥ならではのお話をしましょう。

7/22(日) 14:00~17:00

埼玉県富士見市を訪ねる 

関野農園 夏の畑見学

固定種野菜の自家採種の現場見学と種採りなどの作業体験です。


無肥料自然栽培の畑で実際に作物が育っているところを見ることで、この栽培が現実のものになります。百聞は一見に如かず! です。

9/13

冬野菜の種蒔きと、母本(採種用親株)の選抜と移植のお話

種を蒔き育て次世代へと種を繋げるための母本選抜は、無肥料自然栽培において、もっとも大切な作業です。

10/11

対談 

無肥料自然栽培野菜・自然食品の流通20年から見えてくるもの

—自然食品店の店先から

ゲスト: **松浦 智紀** (有限会社サン・スマイル代表取締役)



今まで1,500件以上の田畑を訪れてきました。無肥料自然栽培に関わる方々で継続している方に共通する事、素敵な想いをお伝えさせて頂けたらと思います



無肥料自然栽培で大きく育った三浦大根

2017年の自然栽培講座受講生に感想を聞いてみました!

◎自分が食べる野菜を自分が作る、いずれそんな夢をかなえたいと思っており、それならば無肥料自然栽培を、と思っていた私にとって非常に良い講座でした。自家採種されている関野さんのお話が聞けたのは貴重な体験でした。

(松平信治)

竹「採り」物語

——ローカルな資源を活かす暮らしを探して

かつては建築材から日用品や玩具にいたるまで日々の暮らしのいたるところで活用されてきた「竹」は今のように見られているのか? 「竹害」として問題化している場面もあれば、その一方で新たな活用法の模索も進められています。本講座では「竹」を題材にしつつ「すでにそこにあるもの(=ローカル資源)をより良く使って暮らす」ことについて座学だけでなく体験的な学びを通して考えていきます。

◎ 2018年5月～12月 ◎ 原則として月1回土曜日 ◎ 全7回/定員15名 ◎ 受講料: 24,000円
※出かける回の交通費や訪問先でのワークショップの参加費などが別途かかります。

5/12(土) 13:00～16:00
オリエンテーション・千葉県長柄町を訪ねる

竹に触れ、感じることから始めよう
新居外志子(竹伝道師)



日本人は、古くから加工のしやすい竹を知恵と工夫を凝らし、生活道具だけではなく、神事・建築など様々に活用してきました。この講座では、竹を存分に触れ合ってください。

◎参考文献: 長野修平『東京発 スローライフ』オレンジページ 2005

5/31(木) 19:00～21:00
「そこにある資源」を使わない社会ができたわけ

内山 節(哲学者/NPO法人森づくりフォーラム 代表理事)



経済的合理性とは何かを、いま改めて問い直していきましょう。

◎主著: 『内山節著作集 全15巻セット』農文協 2016/
『いのちの場所』岩波書店 2015

7/14(土) 11:00～15:00
千葉県長柄町を訪ねる

竹林整備に行ってみよう! きれいな竹林はなぜ必要か?

鹿嶋興一(NPO法人竹もりの里 代表理事)



定期的に地域の竹林整備に取り組んでいます。今回は、皆さんにも作業に参加していただき、なぜ整備が必要なのかを作業をしながら一緒に考えてみたいと思います。

◎参考ウェブサイト: 「NPO法人竹もりの里」<http://takemori.org/>

9/1(土) 10:00～12:30/13:30～16:00
東京都八王子市を訪ねる

竹和紙漉きと壁紙貼りを通して、竹林の活用の意義を考える

渡辺政興(八王子住まいづくり市民塾 紙漉き体験講習会担当)



八王子住まいづくり市民塾は竹林の保全・管理と竹の有効利用が二酸化炭素の排出削減につながると考えて取り組んでいます。竹和紙漉きと壁紙貼り体験を通して、竹林の保全・管理の意義を考えてください。

◎参考ウェブサイト: 「八王子住まいづくり市民塾」http://www.geocities.jp/masaaki_w1943/index.html

※午前部の部・午後部の部の二組に分かれて訪問します



10/13 (土) 16:00~18:00

竹の利用を考える

～燃料資源としての可能性と課題～

泊みゆき (バイオマス産業社会ネットワーク 理事長)



バイオマス発電等で、竹のエネルギー利用に取り組む事例が出てきました。経済性を確保しつつどう竹を利用するか、受講生の方々とともに議論できれば幸いです。

◎主著:『バイオマス 本当の話ー持続可能な社会に向けて』築地書館 2012/『アマソンの畑で採れるメルセデス・ベンツ』(共著)築地書館 1997 ◎参考文献:全国林業改良普及協会(編)『林業改良普及双書 No.176 竹林整備と竹材・タケノコ利用の進め方』全国林業改良普及協会 2014/農山漁村文化協会(編)『竹 徹底活用術ー荒れた竹林を宝に変える! (現代農業特選シリーズ-DVDでもっとわかる)』農文協 2012

11/10 (土) 11:00~15:00

千葉県香取郡を訪ねる

発酵竹パウダー作り手倍増計画

ー発酵×旨・温・美・快の暮らしの活用術

青木秀幸 (NPO法人トージバ 理事)



講座では主に竹パウダーを使った入浴剤やコンポストなど青木家なりの楽しみ方を紹介し、竹パウダー入りの糠床や調理で使える酵母液づくりのコツを伝授いたします。

◎主著:『環境デザイン用語辞典』(共著)井上書院 2007/「特集:やっぱりすごい!米ヌカ&竹パウダー」(出筆)『現代農業』2016年4月号(出筆)農文協 ◎参考文献:『現代農業特選 竹 徹底活用術 荒れた竹林を宝に変える! (現代農業特選シリーズ-DVDでもっとわかる)』農文協 2012

12/1 (土) 16:00~18:00

ローカルな資源を活かす暮らしを探して

大江正章 (PARC 共同代表/コモンズ代表)



地域の資源(自然・人・産物…)を大切にしつつ、開かれた社会をどう創っていいのか。様々な取り組みをベースに「幸せな未来」を一緒に考えていきましょう。

◎主著:『地域に希望ありーまち・人・仕事を創る』岩波新書 2015/『地域の力ー食・農・まちづくり』岩波新書 2008 ◎参考文献:中野佳裕『カタツムリの知恵と脱成長ー貧しさと豊かさについての変奏曲』コモンズ 2016 ◎参考映画:『おだやかな革命』監督・編集 渡辺智史/配給 いでは堂/2017



豆・マメ・まめ！

味噌、醤油、納豆、豆腐、油揚げ、煮豆、枝豆、スープ、おはぎやきな粉などのお菓子……、毎日姿を変えて、私たちの食卓にあがる「豆」のこと、どれくらい知っていますか？ 世界中の神話や民話にも豆がよく登場することや、縄文人も豆や穀物を栽培・食していたこと近年の研究で判明してきたことから、人間と豆は古くから関わりがあり、とても身近なものだったことがわかります。気軽に美味しくいただける豆料理のレシピをマスターし、毎日の食卓で楽しんでみましょう。在来種の大豆を無農薬、無肥料で育て、種を繋ぐことの大切さを畑で感じましょう。収穫したての枝豆をころゆくまでいただく収穫祭も開催！ 豆がもっと好きになること間違いなしのクラスです。古来から人々に愛され、わたしたちの命を支えてきた「豆」を通じて世界を眺めてみませんか。

◎ 2018年6月～11月 ◎ 原則として隔週火曜日19:00～21:00 ◎ 全10回/定員30名 ◎ 受講料: 32,000円

6/5

人類と豆

——その起源と栽培の歴史を紐解く

湯浅浩史 (〈一財〉進化生物学研究所 理事長兼所長)



食生活に欠かせない豆ですが、何種の豆を知っていますか。マメ科は18000種もありますが、食用豆は世界で30種ばかり栽培されているにすぎません。その起源や利用を話します。

◎主著:『ヒョウタン文化誌—人類とともに一万年』岩波書店 2015/『日本人なら知っておきたい 四季の植物』ちくま新書 2017 ◎参考文献:湯浅浩史『マメ科植物資源便覧』(共編)内田老鶴圃 1989/『特集 豆の生き物文化誌 人と豆の丸い関係』『BIOSTORY』vol.9 生き物文化誌学会 2008

6/19

なぜ節分に豆を撒くのか？

——生と死をつなぐ豆の魔力

岩崎眞美子 (ライター)



なぜ立春の前日に豆を撒くのか？ 死から生、冬から春をつなげる豆には、特別な力があると信じられていたからです。暦や行事、神話や伝説などから豆の持つ不思議な力についてお話します。

◎主著:『和ごよみで楽しむ四季暮らし』学研 2009 ◎参考文献:前田和美『ものと人間の文化史 174 豆』法政大学出版会 2015



26

7/7 (土) 終日

千葉県神崎町を訪ねる

まずは豆蒔きからはじめよう！ 大豆レポリューション！

神澤則生 (NPO法人トージバスタッフ)



豆腐、納豆、味噌、醤油、毎日食べている大豆の種をみんなで一緒に蒔きましょう。種取りを続けている地大豆の神崎在来種を不耕起・無肥料で育てます。

7/28 (土) 午後

豆料理実践編

——気楽に楽しく豆料理

枝元なほみ (料理研究家)



今年4月で廃止される種子法。今、種子や農業、食べ物の未来が心配です。でも、だからこそ、大事に育てられた豆を美味しく大事に食べていきたいと思っています。

◎主著:『根菜おかずと豆おかず—素材の持ち味をストレートに楽しむシンプルレシピ』主婦と生活社 2007/『圧力鍋の絶品おかず—手早くできて、ホントにおいしい!』扶桑社 2007

※千代田区内公民館での開催を予定しています





10/16(日)

豆は「食べられる文化財」

——日本中を訪ねて歩いて出逢った豆と人

篠原久仁子(野菜ジャーナリスト)



様々な食材の中でも、豆は地域の食文化を色濃く受け継ぐ、いわば「食べられる文化財」。また豆に魅せられた人々がアツイ！現場で感じたワクワクをお伝えできたらと思います。

◎主著：『からだにうれしい野菜の便利帳—伝統野菜・全国名物マップ』（共著）高橋書店 2011 ◎参考ウェブサイト：野菜ジャーナリスト篠原久仁子 web マガジン「畑からの伝言帖」 <http://shinoharakuniko.com/>

9/4

野生の小豆を追いかけて

——野生種が世界を救う!?

友岡憲彦(農研機構 遺伝資源センター調整室 室長)



限界環境に適応した、野生種を用いた新ストレス耐性作物の栽培化に挑戦しています。アズキの野生種が示す多様性には驚嘆させられています。

◎主著：『The Asian Vigna - Genus Vigna subgenus Ceratotropis genetic resources』（共著）Kluwer Academic Press, 2002 / 『Vigna species』『Broadening the Genetic Base of Grain Legumes』（共著）Springer, 2014 ◎参考文献：『Diversity and Evolution of Salt Tolerance in the Genus Vigna』（共著）Plos ONE, 2016 / 『Multiple organ gigantism caused by mutation in VmPPD gene in blackgram (Vigna mungo)』（共著）Breeding Science, 2017

10/27(土)

千葉県神崎町を訪ねる

採り立て枝豆で収穫祭!

神澤則生(NPO法人トージバ スタッフ)

枝豆と言えば夏のビールのお供というイメージですが、本来の旬は10月なんです。採り立ての枝豆の感動的なおいしさを味わってください!



9/18

世界の豆料理 その多様性と魅力

高増雅子(日本女子大学家政学部 教授)



豆類の原産地は主に5地域に分類でき、地域ごとに特有の豆料理が発達し、豆食文化と対応しています。多様で魅力ある豆料理を紹介できたらと考えております。

◎主著：『和食の教科書』（共著）文溪堂 2016

11/13(日)

在来豆、在来種を繋げる、広げる

——在来豆専門店店主のお話

長谷川清美(へにや長谷川商店 代表)



農家が代々、自給用につくりつないできた日本や海外の在来の豆と日々の料理、そして連綿と続く郷土の暮らしにはじまり、経験知に裏打ちされた英知のすばらしさを在来種と重ね合わせてお伝えします。

◎主著：『へにや長谷川商店の豆料理』パルコ出版 2009 / 『へにや長谷川商店の豆料理—海外編』パルコ出版 2013 ◎参考文献：長谷川清美『へにや長谷川商店の豆図鑑』自由国民社 2015 / 長谷川清美『日本の豆ハンドブック』文一総合出版 2016

10/2

アフリカ・モザンビークの大地から

——「大豆」「開発」「私たちの暮らし」の奇妙なカンケイ

渡辺直子(日本国際ボランティアセンター(JVC))



味噌汁、豆腐……私たちの食卓に日々登場する大豆製品。その背後でアフリカの農民の土地が奪われているとしたら? 「援助」をキーワードに「奇妙なカンケイ」を紐解きます。

◎参考文献：池上甲一、原山浩介(共編)『食と農のいま』ナカニシヤ出版 2011 / 本郷豊、細野昭雄『ブラジルの不毛の大地「セラード」開発の奇跡』ダイヤモンド社 2012 ◎参考ウェブサイト：日本国際ボランティアセンター会報誌『Trial&Error』プロサバナ関係の連載が一部閲覧可能：<http://www.ngo-jvc.net/mt6/mt-search.cgi?IncludeBlogs=16&tag=プロサバナ&limit=20>



楽しい楽しい大豆収穫! 千葉県神崎町トージバの畑にて



雑穀を作り、野の草を利用したくらしを学ぼう

3年目をむかえた秩父雑穀自由学校は、PARC自由学校から生まれた自主サークルで、以前からの活動を含めると9年目になります。

人は野の草（雑草）から長い時間をかけ、食べものを作り出しました。いま、そのことを証明している雑穀を通して、種子、農業、食べものの根幹を問い続けていく「学校」です。単発参加も大歓迎です！



コーディネーター：西沢江美子（農業ジャーナリスト）

●畑の所在地：埼玉県秩父市大宮

（西武秩父駅か秩父鉄道秩父駅から歩いて25分ほど）

※車での参加も可能です。※詳細はお申し込み後にお知らせします。

講師：〈全体の作業指導〉佐野守平さん

〈味噌、大豆づくり〉八木原章雄さん

●期間：2018年4月から1年間。毎月1回定例開催（基本的に第3土曜日に開催します）

●参加費：年間参加10,000円（初回に集めます）

※現地までの交通費は含まれません。

※単発参加：1回3,000円（昼食込み）

※特別プログラム：秩父事件をたずねる旅、竹細工、味噌作りなどは、別途、宿泊費、材料費、講師料、食費がかかります。

●初回：2018年4月21日（土）10:30～16:00（予定）

主なプログラム

- ・雑穀（アワ、ヒエ、キビ、高キビ、大豆在来種借金ナシ）栽培、種子のおはなし
- ・雑穀の食べ方と野草の食べ方、お茶づくり
- ・キクイモ大研究、自由学校の畑わきに生えている野生のキクイモを食べてみよう
- ・味噌づくり：自分で育てた地種の大豆で地元の人から伝統的な味噌づくりを教えてください
- ・秩父で唯一の竹細工職人さんによるかご編み（果物入れ、花かご、使い方自由なかご）
- ・秩父事件の現場を訪ねる——131年前、明治政府が国民生活（人権）を無視し、軍拡に走り出した政策に真っ正面から抵抗し、秩父の農民たちが国民主体の政府をつくろうと立ち上がった秩父事件の歴史の足跡をたどり、今を考える旅です。



●年間スケジュール（予定）

- 第1回 4/21（土）：畑の準備。麦の手入れ。
- 第2回 5/19（土）：野の草を食べる（毒草と食用草の見分け）
- 第3回 6/16（土）：大豆等雑穀の種まき。
- 第4回 7/21（土）：草取りと鳥害のネットはり
- 第5回 8/18（土）：草取りと鳥害のネットはり
- 第6回 9/15（土）：キクイモの花つみと茶づくり、雑穀刈取り
- 第7回 10/20（土）：大豆収穫
- 第8回 11/17（土）：かご編み、雑穀収穫整理
- 第9回 12/15（土）：秩父事件を学ぶ
- 第10回 1/19（土）：畑仕事はじめと凍てつく大地と種子のはなし
- 第11回 2/16（土）：味噌づくりとイチゴ狩り
- 第12回 3/16（土）：収穫物分配と雑穀のレシピ交換会、試食会

※農業は天候しだいですので、計画は大まかなものとなります。定例（第3土曜日）以外でも作業があることもあります。参加できる方々で作業を行います。

◎主催：秩父雑穀自由学校事務局

◎問合せ・お申し込み先：

chichibuzakkoku@gmail.com

◎住所：埼玉県秩父市大宮5734-4

（西沢江美子）

◎TEL&FAX：0494-25-4782



表現・ことばの学校

Creative Activities, Language

- 11 表現することは生きること
- 12 ビオダンサー—あなたとわたしから生まれる〈なにか〉
- 13 武藤一羊の英文精読
- 14 世界のニュースから国際情勢を読み解こう
- 15 ケイトリンの” What's Happening In The World !?”

PARC
自由学校
2018

pacific asia
resource center
freedom school

表現することは生きること

身体の内から生きるエネルギーが湧いてくる講座です。現代ほど一人ひとりがバラバラにされ孤独を強いられる時代はなかったのではないのでしょうか。理念や社会的正義すら人を分断するものとして機能してしまっています。アートは現代社会を反映し象徴しています。アートという一見曖昧で感覚的な現われの中に今を生きる私たちにとって大切なものが詰まっているのです。個人の思想から社会への問題提起までさらに言語や社会的な価値観だけではスパッと割り切れない曖昧な感覚、矛盾や混乱、葛藤といったものまでも、視覚的なイメージから導かれ〈感じる〉ことを通じて共有し分かちあうことができるのです。この講座では、「講義・解説」を聞いてアートを理解するだけでなく、〈感じたこと〉を人と共有し「対話」し、またさらに、実際に「表現すること」を通して表現の原点についてより深く知り作品の理解を深めていきます。アートを通じて何かしたい、人とつながりたい方だけでなく、美術やものづくりに苦手意識がある方にもおすすめ。ひとりで作品と向き合うだけでは見えてこなかった思いがけないイメージや自分自身を発見することができるでしょう。

◎ 2018年6月～12月 ◎ 原則として木曜日 19:00～21:30 ◎ 全12回/定員20名 ◎ 受講料:43,000円(材料費・画材費込み)
※出かける回は現地への交通費・宿泊費・食費などが別途かかります。



講師：中津川浩章(画家/アートディレクター/フリーキュレーター)

ブルーバイオレットの線描を主体とした大画面のドローイング・ペインティング作品を「記憶・痕跡・欠損」をテーマに国内外で展覧会開催。アートによる社会変革、「できないことからつながる社会」を目指す。障害者施設工房集、アール・ド・ヴィーヴルのアートディレクション、展覧会の企画・プロデュース、大学・専門学校でアートを通じたコミュニケーションスキル開発やデザイン・美術教育に携わる。福祉、教育、障害など、具体的な社会とアートの関係性を問い直しつつ、障害の有無にかかわらず、子どもから大人まで、様々な人を対象としたアートワークショップ、講演、ライブペインティング等、被災地を含む全国各地へ。

6/14

リレーして絵を描く

対話しながら一枚の絵を見てみよう①

絵を見て感じたことを感じたまま話し共有し、グループワークから粘土で立体を作ります。参加者全員でリレーして一枚の絵を描きます。F・ベーコン、V・ゴッホ、エミリー・ウングワレーなどさまざまな時代の絵画を見て感じたことを話し合い表現します。

6/28

古典絵画から現代性へ

カラヴァッジョ、レオナルド・ダ・ヴィンチ、レンブラント：写実性の神秘、見ること、光と影の表現
《ワーク：紙粘土、鉛筆》
写実性の神秘にポイントを置いた画家の作品を見ながら語り合い、キアロスкуро(光と影の表現)や線を使ったさまざまな方法で写実ドローイングにチャレンジします。

7/14(土)

ルーヴル美術館展

肖像芸術——人は人をどう表現してきたか

《ワーク：水彩》

国立新美術館へ行き、さまざまな肖像画を見て感じたこと、時代背景を話し合い、その印象や感じたことを言葉や絵画で表現します。

7/26

プレゼンテーションと講評 その1

前期の講義で描いた作品について、どんな思いで何を感じながら作ったのかを発表します。自分でつくった作品を語ることで気づき、他者の感想を聞くことで新たな発見があることでしょう。

国立新美術館を訪ねる 90

8/23

イメージと記憶の交差点

歴史的に重要なアート、広告写真を見て対話し、自分だけの写真集をつくります

写真史とともにアンリ・カルテュ・ブレッソン、U・アッジェ、ダイアン・アebas、広告写真などをレクチャー、語り合い、その後写真集を作ります。


9/6

「シュルレアリスムと夢ドローイング」

夢日記からドローイングを描き、シュルレアリスムや無意識について考えます

夢は自我や無意識の反映だけでなく、日々の生活や社会からの情報をも反映しています。シュルレアリスムの作品について対話しシュルレアリスムと関係する夢・無意識について考えます。そのあと、夢日記から水彩・クレヨンによる夢ドローイングをします。

9/15(土)～9/16(日)

東京近郊で1泊2日合宿 

合宿「自画像は語る」

フリーダ・カーロを中心とした様々な画家の自画像を見て語り合い、様々な視点から自画像を描く

《ワーク：自画像》

なぜアーティストたちは、自画像を描きつけてきたのか？ フリーダ・カーロ、レンブラント、ゴッホ、ピカソなどの作家の自画像を見て語り合います。作品を味わった後で、さまざまな角度から自己を観察し、じっくり時間をかけて自画像を制作します。

10/4


自分って何だろう？

アートセラピーとシュルレアリスム

《ワーク：写真でつくるマンダラ・コラージュ》

アートセラピーやそれに関係するアート、アーティストについて知り、マンダラ・コラージュの方法を使って体験します。

11/3(土)

埼玉県川口市を訪ねる 

埼玉県川口市・アート施設「工房集」を訪ねる

アウトサイダーアートの現場へ

世界的に活躍している作家を生み出している障害者のアート施設「工房集」の展覧会を訪問します。

11/15

対話しながら一枚の絵を見てみよう②

絵を見て感じたことを感じたまま話し共有し、グループワークから紙粘土で立体を作ります

マーク・ロスコ、G・バゼリッツ、G・リヒターなどの現代絵画を見て感じたことを感じたまま話し共有し、個人ワークから絵を描きます。

11/29

表現の本質って？

アールブリュットの作家の作品を見て、感じたことを話してみよう

《ワーク：対話から制作。水彩、クレヨンなど》

アール・ブリュット、アウトサイダーアートの代表的な作品を見ながら、「表現すること」そのものについて考えてみましょう。ワークではグループで紙粘土で立体作品を作ります。

12/13

プレゼンテーションと講評 その2

これまでに作った作品について、互いに感想や意見を出し合うことで、さらに深めます。アートは誰にでも表現でき、語れると実感することが大切です。時代や状況が変わっても、一人ひとりの生きるエネルギーとしてのアートの本質は変わりません。作って終わりではなく、時代を見る目と表現の楽しさを体験し、語り合しましょう！



※世界的に知られる障害者アートの「やまなみ工房」へのツアーもあります。詳しくはP46へ。

ビオダンサ

—あなたとわたしから生まれる〈なにか〉

ビオダンサ (biodanza) とはスペイン語で「生命のダンス」を意味します。南米チリの教育者、人類学者、心理学者であるロランド・トーロ・アラネダ (Rolando Toro Araneda) が人間の潜在力の回復をめざして構築したダンス・ワークです。世界各地の音楽に乗って、内側から出てくる自然な動きを楽しみながら、心と身体を整えていきます。

このプロセスにおいては、一緒にトライし支えあっていく他者の存在がキーとなります。今期のビオダンサ講座では、その他者とのかけあいやコミュニケーションをより丁寧に味わいながら、いのちを中心にした世界との関わりを探究していきたいと思えます。ダンス経験は必要ありません。

◆参考ウェブサイト：<http://www.biodanza.jp/>

◎ 2018年6月～12月 ◎ 原則として木曜日 19:00～21:30 (予定) ◎ 全13回/定員20名 ◎ 受講料：52,000円

◎ 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター (渋谷区代々木神園町3-1)

※出かける回の交通費・宿泊費・食費などが別途かかります。



講師：内田佳子 (ビオダンサ ファシリテーター)

ブラジル音楽に惹かれ、サンバチームでの活動を経て、ブラジルの住民運動を支援するNGOに参加。ブラジルでビオダンサに出会い、2000年に初めてビオダンサを日本に紹介。ファシリテーター資格、養成資格、子ども・思春期向けファシリテート資格を取得。定期クラスやワークショップを開催しつつ、自らも様々なワークや勉強会に参加し、心と身体をつながりを探求し続けている。日本ソマティック心理学協会会員。同ソマティック・プラクティショナー・ネットワーク世話人。

6/14

プロローグ

ビオダンサに関する簡単な説明、自己紹介に続いて、シンプルなエクササイズによって、音楽と身体の動きによるコミュニケーションを体験し、グループと出会っていきます。グループとしてはじめの一步です。



6/28

自分と、世界と、つながりなおす

日常生活の中では、自分の気づかないうちに、自動化された動きを繰り返してしまいがちです。音楽のビートや流れに身を任せ、内側から自然と生まれる動きを味わっていきます。

7/26

フィードバック

身体つき、動きの質、体力、その日の気分は人それぞれ。お互いがフランクに発信するなかから、無理のない形でのつながりと調和を体得していきます。

7/12

多様性にふれる

外の世界にあふれる多様性にふれ、受け取ることは、内なる多様性への扉をも開いてくれます。音楽や状況がもたらしてくれる「場」に飛び込んで、多種多様な表現の可能性を発見していきます。

8/4 (土) ~ 8/5 (日)

1泊2日合宿

ビオダンサ夏合宿！！

スタジオを離れ、日常を離れて一緒に過ごす2日間は、グループとして、また個人としての体験を、様々な私たちでより深めてくれます。ゆったりと悠久のときを感じる週末をご一緒しましょう。



9/6

内なる自然を踊る

四大元素の「地・空気・火・水」。バイオダンスでは、これら四つの際立ったエレメントを、動きのなかで、私たち身体のなかに呼び覚ましていきます。もしかしたら普段あまり発揮していない力と出会うチャンスになるかもしれません。

9/20

心地よさを探究する

やりたいことや達成すべきことのために、ちゃんと働いてくれるものとしての身体はおなじみかもしれませんが、ですが身体は、ただ心地よさを感じるためにも存在しています。その心地よさも十人十色。自分にとっての「快」を、動きのなかから探っていきます。

10/4

他者と出会う、自分と出会う

バイオダンスのクラスは毎回が出会いですが、この回は自分と異なる存在としての相手としっかり対峙する体験を通じて、あらためて自分という存在とエッセンスを体感していきます。

10/18

ミステリー・ツアー①

ここまでのグループの歩みをふまえて、ファシリテーターが特定のテーマを選んでクラスを行います。

2017年のバイオダンス講座受講生に
感想を聞いてみました！

◎バイオダンスと出会い、踊るといふことの喜びを再度感じました。そして、バイオダンスは自分のために踊るダンスだと。その時間は日常生活では見えない自分に出会い発見する時間であり、他者と出会う時間。音楽に身体を預ける心地よさ、踊っているといつの間にか笑顔になってしまうそんな時間です。(こまるゆい)

◎バイオダンスで音楽に助けられるようにして動いていると、身体だけでなく、心の底から何か湧いてくるようです。一緒に踊ることで、他のメンバーと色んな目に見えないものを分かち合うこともとても大事な体験になりました。またこの講座で踊りたい♪(A・N)

11/1

種としてのつながりを生きる

誰とも異なる自分であること、みんなと同じ人間であること。バイオダンスでは両方とも再発見していきますが、この回は後者に焦点を当て、コミュニティの只中でエネルギーに、そしてしなやかに脈動していきます。

11/15

ミステリー・ツアー②

ここまでのグループの歩みをふまえて、ファシリテーターが特定のテーマを選んでクラスを行います。

11/29

Giving and Receiving

一回一回の出会いのなかで立ち上がっては、編み出されていく。他者との関係性はまさにダンスそのものです。音楽の力を借りて、与えること、受け取ることの可能性と不思議を味わっていきます。

12/13

エピローグ

ともに歩んだ半年間のプロセスを祝いつつ、今期取り組んできたテーマを総括する形で踊り納めをしていきます。



★バイオダンス自主講座のご案内

(開催期間2018年1月～5月)

自由学校が開催されるまでは2017年度受講生有志による自主講座が行われています。お気軽にご参加を！

→詳細はP.47へ

武藤一羊の英文精読

講師とともに、一冊の本をじっくりと読み込むクラスです。ことばの一つひとつの解釈やそこに込められた作者の思想を読み解きながら、講師と受講生で内容について議論を深めていきます。今年は、シャンタル・ムフの「民主主義の逆説」(The Democratic Paradox) を読みます。

テキスト：Mouffe, Chantal "The Democratic Paradox" Verso 2009(ペーパーバック版)

※テキストは事前に各自でご購入ください(2000年発売のハードカバー版も可)

🕒 2018年5月～2019年1月 🕒 原則として隔週水曜日 19:00～21:00 🕒 全15回/定員15名 🕒 受講料：46,000円



講師：武藤一羊(ピープルス・プラン研究所 運営委員)

1931年生まれ。「ベトナムに平和を！市民連合」での活動を経て、1969年に英文雑誌『AMPO』の創設メンバーとして日本の情勢を世界の知識人に発信する。1973年鶴見良行、北沢洋子などとともに「アジア太平洋資料センター(PARC)」を設立、1996年まで代表を務める。1998年「ピープルス・プラン研究所」を設立。社会評論家としてノーム・チョムスキーなどの知識人と国際的な親交をもつ。1983～2000年、ニューヨーク州立大で期間教員を務める。

◎主著：『戦後レジームと憲法平和主義—く帝国継承—の柱に斧を』れんが書房新社 2016/『潜在的核保有と戦後国家—フクシマ地点からの総括』社会評論社 2011/『アメリカ帝国と戦後日本国家の解体 新日米同盟への抵抗線』社会評論社 2006 ◎共訳書：ジャイ・セン他『世界社会フォーラム 帝国への挑戦』作品社 2005

●Chantal Mouffe, The Democratic Paradox(シャンタル・ムフ 民主主義の逆説) 今年はこの本を読みます。シャンタル・ムフは、エルネスト・ラクラウとともに、今日の民主主義の機能不全を、熟議によるコンセンサス形成によって解決しようとするユルゲン・ハーバマスなどの議論(deliberative democracy)にたいして、1990年代、対立を含む複数主義(agonistic pluralism)による民主主義を提唱し、そのために「政治的なるもの」の復権を唱えて大きな論争を巻き起こしたベルギー出身の政治学者です。彼女は1943年生まれ、今はウエストミンスター大学教授で、広く国際的に活動しています。文章は明快、切れ味よく、読みやすいです。ほくの議論と重なるところが多いので、大いに気に入っています。140ページ。一緒に読みませんか。

テキスト著者：シャンタル・ムフ(ウエストミンスター大学 教授)

1943年ベルギー生まれ。コロンビア国立大学、ロンドン市立大学、ロンドン大学ウエストフィールド・カレッジの教授を歴任し現職。民主主義を根源的に問い直し、「政治的なるもの」の領域を探求してきた政治学者。本講座のテキスト以外に、『政治的なるものの再興(The Return of the Political)』日本経済評論社(1998)、『政治的なものについて—闘技的民主主義と多元主義のグローバル秩序の構築(On The Political)』明石書店(2008)などの著書が和訳されている。



▶こんな人におすすめ!

- ・一冊の本を深く読み込む力を身につけたい方
- ・民主主義思想や現代政治に興味のある方やその理論的背景を知りたい方

▶クラスの進め方

各回の予習箇所について、参加者がそれぞれ約1ページずつ、文章を訳していきます(挙手制)。そして、テキストの内容に関するディスカッションを日本語で講師と参加者で行います。英文の読解力を高めたい人にピッタリのクラスです。武藤一羊さんの鋭いコメントも魅力の一つ。

◎日程

第1回：5/23(水)	第9回：10/17(水)
第2回：6/6(水)	第10回：10/31(水)
第3回：6/20(水)	第11回：11/14(水)
第4回：7/4(水)	第12回：11/28(水)
第5回：7/18(水)	第13回：12/12(水)
第6回：9/5(水)	第14回：1/9(水)
第7回：9/19(水)	第15回：1/23(水)
第8回：10/3(水)	

世界のニュースから国際情勢を読み解こう

インターネットや雑誌、新聞の英文記事を読み、その背景も学びながら日本語で議論する講座です。開発、経済、貿易、食の問題など、日本や世界の情勢についてのトピックから、参加者とともにテーマを選んでいきます。英語の文章を読み解く力、日本語らしく話す力、そして溢れる情報を判断する力を身につけると同時に、様々なものの見方や考え方に会うことができます。

◎ 2018年5月～2019年1月 ◎ 原則として隔週火曜日 10:30～12:30 ◎ 全15回／定員15名 ◎ 受講料：42,000円



講師：廣内かおり

(アフリカ日本協議会 TICAD・国際保健担当コーディネーター)

市民団体のメンバーとして遺伝子組み換え問題やTPP問題等の翻訳、通訳に協力しながら、フリーランスとしても翻訳を行う。共訳書にリチャード・J・サミュエルズ『3.11震災は日本を変えたのか』英治出版 2016など。

※前後半で各講師が分担して担当します。



講師：田中 滋 (PARC 事務局長)

米国コーネル大学在学時からACORN (Association of Community Organizations for Reform Now) をはじめとする米国における低所得者層を支援する社会運動に関わる。帰国後は環境NGO A SEED JAPAN事務局を経て現職。社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク (RIPESS) やアジア太平洋調査ネットワーク (APRN) など国際的なNGOネットワークの理事も担う。

▶ こんな人におすすめ！

- ・日本のことが海外でどのように報じられているのかを知りたい方
- ・日本ではあまり伝えられないニュースの裏側を知りたい方
- ・NGOやインディペンデントジャーナル、批評家の視点や分析を知りたい方

▶ クラスの進め方

事前に講師から送られる海外のニュース記事やNGOのレポートなどを参加者全員で読み説きます。

講師それぞれの市民活動の視点から、ニュースの背景にある社会現象の解説を加えます。英日翻訳やニュースの読み方、NGOスタッフに必要な英文読解力が身につくクラスです。

◎ 日程

第1回：5/29(火)	第9回：10/23(火)
第2回：6/12(火)	第10回：11/6(火)
第3回：6/26(火)	第11回：11/20(火)
第4回：7/10(火)	第12回：12/4(火)
第5回：7/24(火)	第13回：12/18(火)
第6回：9/11(火)	第14回：1/15(火)
第7回：9/25(火)	第15回：1/29(火)
第8回：10/9(火)	

ケイトリンの“What's Happening In The World”

このクラスでは、インターネットのニュースサイトやブログ、ビデオや映像など、様々な英語のコンテンツを読んだり、見たりしながらインスピレーションを得て、議論していきます。インドやオーストラリアでの環境保護運動を調査・研究する国際政治学徒で、日本の自然や文化を愛するエコロジストと多彩な顔を持つケイトリンさんを講師に、英語での表現を楽しむ、そして丁寧に学んでいきます。会話やエッセイを通して、自分の意見をはっきりと伝える力もつけていきましょう。

◎ 2018年6月～2019年1月 ◎ 原則として土曜日 15:00～17:00 ◎ 全12回／定員15名 ◎ 受講料：35,000円



講師：ケイトリン・ストロネル (NPO法人原子力資料情報室 スタッフ/浅川金刀比羅神社 神主/「ニュー・インターナショナルリスト誌」日本代理)

オーストラリア出身。高校生の時に交換留学生として初来日。慶應義塾大学大学院で政治学を専攻。その後インドのネールー大学に7年間滞在し博士号を獲得。神主、環境運動家、雑誌発行人と多彩な顔を持つ。3.11で原発の危険性に目覚め、現在はNPOのスタッフとして脱原発の世界を目指している。

▶ こんな人におすすめ！

- ・環境問題や社会問題について英語でディスカッションできるようになりたい方
- ・日本の社会・文化について英語で説明できるようになりたい方

▶ クラスの進め方

毎回、その時々ホットトピックについてのニュース映像や記事を取り上げます。重要な表現や単語の意味を講師が丁寧に解説した上で、参加者同士で感じたことを自由にディスカッションします。初めて英語の勉強をする人でも安心のクラスです。話す力や聞く力が身につきます。

◎ 日程

第1回：6/23(土)	第7回：10/20(土)
第2回：7/7(土)	第8回：11/3(土)
第3回：7/21(土)	第9回：11/17(土)
第4回：9/8(土)	第10回：12/1(土)
第5回：9/22(土)	第11回：12/15(土)
第6回：10/6(土)	第12回：1/12(土)

PARCの市民研究会！

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター（PARC）では、国内外で起きている社会問題について市民一人ひとりが調査し、学んでいくための市民調査を率いてきました。100円ショップで販売されているモノがどこから来ているのか？ 驚異的な安さで日本の食卓に乗るようになったバナナはどんな人がどのように育てているのか？ などといった市民目線の調査を通して、凶悪な労働環境や破壊的なプランテーションの実態を明らかにしてきました。

限られた専門家やメディアに真実を依拠するのではなく、一人ひとりが世界の真実を学ぶための市民調査にアナタも参加してみませんか？ 専門家である必要はまったくありません。「知りたい」という好奇心、少し難しい本でも読んでみる根気、現場に足を運ぶ行動力。そのいずれかでもあれば大歓迎。まずは、現在行われている研究会から参加してみてください。

ニューエコノミクス研究会（ニューエコ研）

この研究会は、1970年代頃から世界の市民社会で取り組まれている、オルタナティブな経済理論と実践（通称、ニュー・エコノミクス）を学んでいきます。循環型経済の研究調査、途上国債務問題の研究調査、新しい豊かさ指標の作成、オルタナティブ・テクノロジー、エコロジー運動、地域主義／ローカリゼーション、身の丈の経済、循環型経済、補完通貨、幸せの経済学、社会的企業、連帯経済、ポスト開発・脱成長など、オルタナティブな経済を実現するための取り組みは多数あるものの、その調査研究と言えば、これらのどれか一つに的を絞って行なうことが一般的でした。しかし現実には、一つの理論を学んでそれを応用すれば社会は変わるというものではありません。むしろそれぞれの理論や実践の間にある「接点」や「共通課題」を探っていくことが、これからはより必要とされています。

そこで、この研究会では、3ヶ月に一回のペースで、ニュー・エコノミクスに関わるトピックに関して、幅広く講演会、読書会などを行ないます。

コーディネーター：中野佳裕（明治学院大学国際平和研究所 研究員／PARC 自由学校 講師）
〈次回の予定〉2017年4月9日（月）19:00～21:00

資源採掘問題研究会（ホリ研）

携帯、スマホ、パソコン、テレビ…。私たちの身近なところには電子機器があふれていますが、それら一つひとつの中にたくさんの鉱物資源が使われています。それはどこから来ているのでしょうか？ 調査をしてみると、鉱山現場は現代においても危険な労働環境、汚職、環境破壊を伴いがちな産業であることがわかってきました。

そこで、「ホリ研」では日本のNGOらによるネットワーク「エシカルケータイキャンペーン実行委員会」とも協力し、二つのアプローチから調査をしています。私たちの手元の鉱物資源のルーツをたどり、それがどこで得られたものなのかを川下からたどる調査が一つ。それによって、日本企業の調達方針を紐解いていきます。もう一つは、問題が指摘されている世界中の鉱山から鉱物が日本にやってくるまで、川上からたどる調査です。

エシカルケータイキャンペーンウェブサイト：<http://www.ethical-keitai.net/>

特別講座・ツアー

Special courses, Tour

- ・ ブラジル日本人移民110周年 記録映像作家と見る・歩く・出会う 移民を巡る旅
- ・ ワンコイン・シネマ・トーク
- ・ エクアドル・インタグ地方 自然に寄り添うオルタナティブな暮らしづくりを感じる旅
- ・ アクションツアー沖縄 2018 ー平和の祈りを沖縄から
- ・ あるがままの自分が認められる場所「やまなみ工房」を訪問する旅

PARC
自由学校
2018

pacific asia
resource center
freedom school



ブラジル日本人移民110周年

記録映像作家と見る・歩く・出会う

移民を巡る旅



群馬県太田市の畑でマンジョッカイモ掘り体験

◎2018年 ◎全5回／定員30人 ◎受講料20,000円

※現地への交通費や、現場での食費、プログラム費が別途かかります。

※短期講座につき、自由学校を初めて受講される方も入会金は発生いたしません。

移民船・笠戸丸がブラジルに到着してから110年。以来ブラジルと日本の縁は深く、今や多くの方がブラジルに縁を持ちながら日本で暮らしています。

この講座は自ら「ドキュメンタリー移民」としてブラジルに渡った記録映像作家岡村淳さんと日本にやってきた「移民」の方々、ブラジルや世界のほかの多くの国々と縁ある方々を巡る旅であり、グローバル時代に逆行して鎖国化する日本にラテンな風穴を開けてみる試みでもあります。

ブラジル移民を軸に人が移動すること、多様な価値観と文化の中で生きていくということ、実際に町を歩き、地域で生きる人びとと出会い、岡村監督制作の映像作品も見ながら、共に考えていきましょう。

案内人：岡村 淳（記録映像作家）



東京都目黒区出身。ブラジル・サンパウロ在住。早稲田大学第一文学部日本史学専攻卒業。考古学・民俗学・人類学などから、現代日本文化に潜む縄文文化の痕跡を研究。日本映像記録センター（映像記録）入社。牛山純一代表プロデューサーにテレビ・ドキュメンタリーの作法を叩き込まれる。1987年よりブラジルに移住し、1997年より自主制作によるドキュメンタリーづくりを始める。ブラジルの日本人移民、そして社会・環境問題をテーマとした作品の制作を継続中。作品のDVD化やレンタルをせずに、上映には制作責任者である岡村の立会いを原則とする「ライブ上映会」を行なっている。「ひとりでもご覧になりたい方がいればおうかがいする」という方針で、日本とブラジルをはじめ、世界各地でライブ上映会を実施している。



◎主著：『忘れられない日本人移民 ブラジルへ渡った記録映像作家の旅』港の人 2013

◎WEBサイト：岡村淳のオフレコ日記<http://www.100nen.com.br/ja/okajun/>

9/1(土) 14:00～17:00

オリエンテーション

アマゾン先住民から見る人の移動

人は、なぜ移動するのか/しないのか？

そして、あなたは？

会場：PARC 自由学校

大アマゾンの取材が契機で自らブラジル移民となった映像作家が、人類史、移民史そして自分史を通して人の移動を考えます。

◎上映作品：『大アマゾン ヤノマモの人々』、『60年目の東京物語 ブラジル移民女性の里帰り』（構成・撮影・編集・選曲・報告 岡村淳／40分／1996）



9/5(水) 19:00~22:00

東京都杉並区を訪ねる

日本は最大のブラジル音楽消費国!?

なぜ私たちは「ブラジル音楽」に魅せられるのか、その謎に迫る

Willie Whopper

(ブラジル音楽ジャーナリスト/ Barzinho Aparecida オーナー)

ブラジルは様々な国からの移民や多民族からなる国、その地で生まれる音楽も多様です。西荻窪のブラジリスポット Aparecida (アパレシーダ) を訪問し、ボサノバ、サンバだけではなくブラジル音楽の魅力と、なぜ日本でブラジル音楽がこれだけ好まれるのか、ブラジル渡航歴18回の音楽ライター Willie さんに伺います。



ブラジルは世界的に類を見ない混血国家です。音楽も世界中のエッセンスが溶け込んでいます。今回はブラジル音楽の楽しみ方のちょっとしたポイントをお伝えしたいと思います。(Willie Whopper)

◎上映作品: 岡村監督撮影のミュージシャン関連映像を上映します
※ワンドリンク付

9/10(月) 午後

茨城県土浦市を訪ねる

ブラジルコミュニティーで子供たちと生きる・未来をつくる

櫻田 博 (K&S 代表)

櫻田ネイデ幸枝 (K&S)

茨城県土浦市神立で南米ルーツの子供たちの学習サポートと学童保育に取り組むK&S (キッズ&スクール) を訪問、

スクールの日常を見学し、お話を伺います。



ダブル(二倍)、ハーフ(半分)、同じ子供たちが、二つの言葉で呼ばれている。そのことが、僕が接している子供たちの存在そのものを象徴している。ダブルとハーフの間を常に行ったり来たりする気持ち。そのことに少しでも多くの人が想像をめぐらせてくれればいいなあと思っている。(櫻田 博)



K&Sの子供たちのクリスマスパーティー

9/16(日) 終日

神奈川県横浜市を訪ねる

南米日本移民の歴史を学び、多文化共生の町を歩く&ブラジル焼肉の夕べ

伊藤 修 (ブラジル炭火焼肉ガウシャ店主)

協力: ART LAB OVA (アートラボ・オーバ)

1859年の横浜港開港後、横浜から大勢の移住者が移民船に乗り海外へと旅立ちました。現在は世界中からの移民が集まり、多文化共生の町となった「横浜」を移民という視点から歩き、学び、世界を捉えなおす1日です。横浜若葉町でブラジル炭火焼肉ガウシャを営むアマゾン帰りの店主と岡村監督によるトークも炸裂!



横浜生まれ、美大で漆工芸を学んで役所勤め。勢いでアマゾンに渡り、現地の少女と結婚。日本にUターン、組系と渡り合っ……プール付き豪邸住まいからネカフェ暮らしへ。そんな伊藤さんと多文化の町を歩き、語ってみます。(岡村 淳)

◎上映作品: 『焼肉と観音 その後の「アマゾン」の読経』(構成・撮影・編集 岡村淳/42分/2016)

9/22(土)

群馬県太田市を訪ねる

農・食で繋がるブラジル世界と私たち

ブラジル野菜畑見学とマンジョッカ(キャッサバ)芋掘り体験&ディープ「ブラジルタウン」ツアー



門間サオリ
(ブラジル料理研究家)



松橋美晴
(KIMOBIG BRASIL 代表)

かつて日本からブラジルに渡った移民たちは厳しい天候や土壌の上、苦勞して野菜栽培の基礎を作りました。それから時を経てブラジルから日本へ、農の風が吹きはじめています。ブラジル出身日系2世の料理研究家門間サオリさんと地元農家がブラジル野菜栽培に取り組む現場を訪ね、お話を伺います。秋が旬のマンジョッカイモ掘りと掘り立てマンジョッカの試食、観光目線では辿り着けない、マニアックでディープな「ブラジルタウン」大泉の町歩きも開催します。

「ブラジルタウンと呼ばないで」住民と行政、日系ブラジル人達の温度差は訪れてみないとわかりません。食はすべてを語ります。驚きのブラジルグルメを体験してください。(門間サオリ・松橋美晴)

※KIMOBIG BRASIL (キモビッグ・ブラジル)

「日本にいながらブラジルライフ」をコンセプトに掲げ、ブラジルと日本を繋ぐ活動を続けるコミュニティーファクトリー ウェブサイト: <http://kimobig.jp/>

ワンコイン・シネマ・トーク

グローバル化の時代といわれる今日、私たちは、身の回りにある「安さ」や「快適さ」がどのように形作られているのか、ふだん意識することがありません。しかし、ひとたび舞台裏に目を向けると、環境や人権をめぐるさまざまな問題が浮かび上がります。「ワンコイン・シネマ・トーク」は、PARC制作の映像作品を見て、講師のお話を聞き、参加者みんなで語り合う場です。自由に感想・意見を出し合い、ともに現代社会について考えましょう。

◎2018年6月～12月 ◎全4回 ◎参加費：各回500円

※特別オープンクラスにつき、どなたでも参加可能です。

6/4(月) 19:00～21:30

上映作品 『女たちが語るインド』

(1996年、43分、監修：甲斐田万智子)

差別や暴力と闘う途上国の女性たち



解説：甲斐田万智子 (認定NPO法人国際子ども権利センター〈シーライツ〉代表理事)

【作品介绍】 貧困とカースト制度が根をはるインド社会。教育を受けることができず、親の決めた相手と結婚させられ、自分の財産すら持てない——そんな社会的境遇を変えようと活動するインド・グジャラート州の女性たちの姿を追います。上映後には、作中で女性たちと語り合った監修者の甲斐田万智子さんに、20年後の視点から解説していただきます。欧米を中心に、差別や暴力に対して女性が声を上げていく「MeToo (私も)」運動が広がりを見せている今日、途上国の女性たちがどのような差別や暴力に直面し、どのように声を上げようとしているのか。議論します。



8/6(月) 19:00～21:30

上映作品 『食べるためのマグロ 売るためのマグロ』

(2008年、31分、監修：井上礼子)

持続可能な漁業と魚食とは？



解説：花岡和佳男 (株式会社シーフードレガシー 代表取締役)

【作品介绍】 日本食の代表、刺身。なかでもマグロは、1年を通して最も広い売り場面積を占め、このかつての高級魚を私たちは手ごろな値段で買っています。しかし、東京・築地、清水、境港、奄美大島、メキシコ、フィリピン、中国・大連の各地の取材から見えてくるのは、乱獲や資源の枯渇、環境への負荷、豊かになれない漁民たちといった問題の数々。マグロを通してグローバル化する「食」の構造を検証します。上映後の解説は、元・国際環境NGOグリーンピース海洋生態系担当で、漁業コンサルタントの花岡和佳男さん。築地移転やオリンピックが迫るこの東京で、日本の漁業と魚食の将来を考えます。



10/15(月) 19:00~21:30

上映作品 『コンビニの秘密—便利で快適な暮らしの裏で』

(2017年、39分、監督：土屋トカチ)

日本社会の縮図・コンビニ



解説：土屋トカチ (映画監督)

【作品介绍】日本全国に約5万5000店存在するコンビニエンス・ストア。しかし、ほぼすべてのコンビニは「フランチャイズ・チェーン方式」の個人営業店。年中無休の24時間営業と多様化するサービスの裏では、オーナーとアルバイトが長時間労働やノルマに悲鳴を上げています。さらに、24時間棚に商品が並び店舗からは、毎日大量の食品が廃棄されています。コンビニを通して、私たちの社会の生産、消費、労働のあり方を考えます。上映後には、監督・土屋トカチさんとコンビニ関係者によるトーク。身近な存在・コンビニから浮かび上がる問題を一緒に語り合しましょう。



社会を知る学校

世界を知る学校

12/3(月) 19:00~21:30

上映作品 『バナナ植民地フィリピン』

(1994年、33分)

2018年春完成予定の新作も上映!!

バナナと日本人—過去と現在



解説：石井正子 (立教大学異文化コミュニケーション学部 教授)

【作品介绍】安価な輸入果物の代表格、バナナ。しかし、その背後にあるのは、私たちが安いバナナを食べる一方で、低賃金の労働者の健康が農業によって害されている現実です。フィリピンと日本の関係をバナナから見つめます。

バナナ問題を日本社会に投げかけた故・鶴見良行の調査から約40年。生産地で何が起きているのか？ 最近人気の「高地栽培バナナ」とは？ PARCでは現在、バナナについて新作を制作中です。旧新2作品を上映後、フィリピン・ミンダナオ島を歩く研究者・石井正子さんに「バナナと日本人」の過去と現在を解説していただきます。



環境と暮らしの学校

表現・ことばの学校

PARC VIDEO & DVD

アジア太平洋資料センター (PARC) では、アジアの市民団体や研究者とのネットワークを活かして、世界の現実をとらえ、社会や私たちの暮らしを見つめなおす視点を提供するオーディオ・ビジュアル作品をこれまで約50本制作してきました。エビやバナナ、ペットボトルの水、バイオ燃料、パーム油など、身近なモノとグローバル化、コーヒーや債務から考える南北問題、開発や児童労働など、多彩な内容の作品は全国の図書館や学校、開発教育の現場で活用されています。

- ◆不特定多数の方への貸し出しを行なう場合、大学・学校の授業でご使用になる場合、研究機関に所蔵する場合は図書館価格になります。
- ◆自主上映会の開催につきましては、事務局までお問い合わせください。

【最新作品介绍】

『種子—みんなのもの？ それとも企業の所有物？』

(DVD / 本編39分 / 解説編30分 [予定])
定価 本体3,000円 + 税 (図書館価格：本体15,000円 + 税)

食の源である種子が、グローバル企業の管理下に置かれようとしている——。2010年以降、ラテンアメリカでは、農民による種子の保存を禁じる通称「モンサント法案」をめぐる、農民を先頭に、先住民族、女性、市民、さまざまな人たちが声をあげ、大規模な反対運動が起こりました。種子を守り、地域の食・経済・文化を守る人々の闘いを描きます。

『コンビニの秘密—便利で快適な暮らしの裏で』

(DVD / 39分)
定価 本体5,000円 + 税 (図書館価格：本体15,000円 + 税)

私たちの生活に欠かせない存在となったコンビニエンス・ストア (コンビニ)。公共料金の支払い、宅急便の受け取りなどサービスも多様化し、日本全国で約5万5000店が、年中無休365日24時間営業を行なっています。しかし、コンビニには何の問題もないのでしょうか？ コンビニを通して、私たちの社会のしくみ、生産と消費、労働のあり方を考えます。

特別講座ツアー

自然に寄り添う オルタナティブな 暮らしづくりを 感じる旅



- ◎日程：2018年9月9日～17日（9日間）
- ◎参加費：360,000円～（全行程宿泊費・食費・移動費含む／予定）
- ◎最低催行人数：8名
- ◎申し込み締切：2018年6月30日



現地コーディネーター：**和田彩子**（環境＝文化NGOナマケモノ倶楽部／（株）ウインドファーム）

1975年生まれ。1999年にエクアドルを訪れ、インタグ地方の自然と人びとの取り組みに魅せられ2002年以來現地に長期滞在し、ナマケモノ倶楽部／ウインドファームのエクアドルスタッフとして、エクアドルと日本の橋渡しをしている。自身も家族で有機農園を営んでいる。



エクアドルは、南米赤道直下に位置する地球の陸地面積のわずか0.2%に満たない小さな国ですが、そこにはホエザルやクモザル、メガネクマなどの絶滅が危惧されているほ乳類の他、世界の植物種の10%（ランだけでも4000種以上！）、鳥類の18%近くが生息し、世界有数の生物多様性を誇る「メガ多様性国」として知られています。太平洋沿岸地域から標高6000メートルを超えるアンデス山脈、そしてそれをさらに超えたところにはアマゾン河源地域の熱帯雨林が広がり、多種多様な生態系が豊かな生物多様性を生み出しているのです。

このツアーで訪れるエクアドルの北西部に位置するインタグ地方は、世界でも希少な森林生態系として知られる「雲霧林」が広がる地域であり、エクアドルの中でも特に自然豊かな場所です。同時に、1990年代に日本の政府・企業による試掘が行われて以来、この豊かな自然の下に眠る銅やモリブデンを求める鉱山開発に脅かされてきた土地でもあり、インタグの人び

とは20年以上も鉱山開発に反対してきました。

鉱山開発に伴い、水質汚染による皮膚疾患や家畜の死亡被害や、開発推進派や企業による恫喝や脅迫を経験してきたインタグの人びとは、この破壊的な「開発・発展」に頼らずに自然と共生できる持続可能な発展の道を模索してきました。ただ開発に抵抗するだけではなく、自分たちの望む暮らし作りに取り組んできたのです。その形は、森林農法による有機コーヒー栽培、エコツーリズム、女性グループによる石鹸や手編み製品の生産など様々です。

インタグの豊かな自然と、その自然の守り手である人びとに会い、彼らのオルタナティブな暮らしづくりを感じる旅にでかけませんか。インタグの自然と人びとの多様性から学び、つながりを持つことで、「開発・発展」や「豊かさ」の意味や、今とは違う「もう一つの世界」について、これまでとは違った答えが見えてくるかもしれません。

◎ツアー行程表(予定)

9月9日(日):成田空港集合… 午後の便でエクアドルの首都キトへ(途中乗り換え一回)… キトのマリスカル・スクレ空港に深夜到着… キト市内に宿泊

9月10日(月):現地コーディネーターによるオリエンテーションの後フニン村へ出発… 途中森林を再生し持続可能なチョコレート生産を目指すマシュピ農園を訪問… エコ・フニン・ロッジに宿泊

9月11日(火):フニン村住人によるエコツアー… フニン村のコミュニティー保護区内の雲霧林で山歩き… エコ・フニン・ロッジに宿泊

9月12日(水):朝食後フニン村からロサル村へ移動… 自然素材を使った石鹸などを作っている女性グループ、ロサル農産物・手工芸品女性生産者組合(ASOFEPAR)を訪問… 食事の用意などを通して村の住民と交流し、宿泊は村民の家庭で民泊

9月13日(木):森林農法で森を育てながら有機コーヒーを栽培しているインタグ有機コーヒー生産者組合(AACRI)の組合員の農園を訪問し、その後のAACRIの焙煎場を見学… インタグ雲霧林保護区へ移動… 保護区内のロッジに宿泊

9月14日(金):午前はインタグ地方で環境活動家・写真家として長年活動してきたカルロス・ソリージャさんの案内で保護区内を散策… 午後は保護区近隣の集落へカプヤ編みの生産者組合(女性と環境)の生産者を訪ねる… インタグ雲霧林保護区内のロッジに宿泊

9月15日(土):マーケットで有名なオタヴァロ市へ移動… 途中コタカチ郡最大の湖クイコチャチャ湖で昼食… オタヴァロ市では夕食まで自由時間… 夕食後キトのマリスカル・スクレ空港へ… この日の深夜便で成田へ… 機内泊

9月16日(日):移動日… (途中乗り換え一回) 機内泊

9月17日(月):午後成田着… 解散

※日程・予定は前後する可能性があります



© Carlos Zorilla

このツアーで訪ねる人びと(一部)

◆ハビエル・ラミーレスさん



フニン村の元村長。森林農法でオーガニック・コーヒーをつくりつつ、村の自然を守るために鉱山開発に反対する運動を率いてきました。2014年には暴行罪、国家逆罪などの嫌疑を鉱山開発推進派にでっち上げられ、収監されていましたが2015年2月に嫌疑は晴れて保釈。今日も村を守るために戦っています。

◆カルロス・ソリージャさん



1951年キューバに生まれ。1979年にエクアドルのインタグ地方に家族とともに移住して以来、地域の人びとと協力して無農薬での森林栽培コーヒー生産や、エコツーリズム、サイザル麻カプヤの民芸品など、森を残しながら暮らしを豊かにする事業を夫婦で展開してきました。環境保護団体デコイン(DECOIN)の会長として、インタグ地域の貴重な森を、銅山開発から何度も守っています。

◆ノルマ・ボラニョスさん



1995年に設立された鉱山開発に反対する女性グループ「女性と環境(カプヤ編み生産者組合)」のリーダー。環境を壊さず、地元の植物である「カプヤ」を使い、繊維の生産、染色、手編み製品の生産まで女性の仕事作りに取り組んでいます。ノルマさんたちの製品は日本へもフェアトレードで輸出されています。

◆カルメン・ルイスさん



ロサル村の女性グループ、ロサル農産物・手工芸品女性生産者組合(ASOFEPAR)のリーダー。女性たちが自ら自分たちの仕事を作るというビジョンのもと、2004年の組合設立以来、天然素材の石鹸やシャンプーなどの生産に取り組んでいます。原料となるアロエなどの栽培にも取り組み、地元の資源を使った持続可能な生産を目標としています。



渦中の島、沖縄は私たちに多くの問いを投げかけます。抵抗運動を続ける人びとへの警察や機動隊の弾圧は厳しくなる一方で日々緊迫した状況が現地では続いています。

このツアーでは沖縄県知事選直後の辺野古の一斉行動に参加し、私たちも抗議の意思を訴えながら、基地や戦争に反対する思いを共にする人びとと交流します。沖縄戦のなかでも激戦地の一つといわれる伊江島も訪問し、島の歴史と現在を巡ります。反基地闘争、土地闘争を指導し「沖縄のガンジー」と呼ばれた阿波根昌鴻^{あはこんしやうこう}の実践と思想を学び、平和への祈りを新たにしましょう。

沖縄各地での活動の現場と歴史を巡り、人びとと出会いながら繋がり、私たちがそれぞれこれからのようなかかわりができるのか共に考えてみませんか。学び、歩き、動き出すための旅です。

アクションツアー沖縄 2018

平和の祈りを沖縄から



案内人: 太田武二 (命どう宝ネットワーク)

1949年宮古島生まれ。東京育ち。運転手として働きながら、様々な平和活動・集会に参加。沖縄を軍事拠点から平和の要へ変えるための運動の中で三線を弾き始める。自ら集会や芸能文化祭、スタディツアーなどを企画・開催もする。命どう宝ネットワーク代表。PARC自由学校クラブ「テグー三線クラブ」リーダー。

◎日程: 11/23(金・祝) ~ 11/26(月) 3泊4日

◎参加費: 56,000円 (宿泊費、1日目夕食代、2日目朝・昼・夕食代、3日目朝・昼・夕食代、4日目朝食、現地での移動費、入場料、保険代など込み)

◎定員: 17名

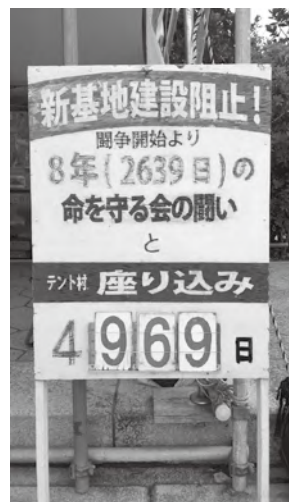
◎申し込み締切: 2018年10月31日(水)

※本ツアーは現地集合・現地解散となります。

※26日朝の本ツアー解散後、希望者は南部戦跡・聖域オプションツアー(別途参加費4000円)にご参加いただけます。

※期限内でも定員に達し次第、締切とさせていただきます。

※締め切り後のお申込みについてはお問い合わせください。



●申し込み・お問い合わせ

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター (PARC) 自由学校 〈担当: 高橋〉
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F Tel: 03-5209-3455
E-mail: office@parc-jp.org

■日程・プログラム(予定) ※スケジュールは現地の状況・天候などにより変更になる場合があります

11/23(金・祝)

12:00 那覇空港1階到着ロビー集合。貸切バスにて読谷村に移動。道中、道の駅「かでな」から嘉手納基地見学。

14:00～チビチリガマ見学。知花昌一さん(平和運動家/元読谷村議会議員)にお話を伺う。チビチリガマに設置された平和の像を制作した金城実さん(彫刻家)アトリエ訪問。お話を伺う。読谷村の民宿何我舎(ぬーがやー)に宿泊。BBQディナー。

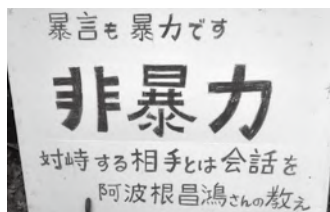


11/24(土)

読谷村から辺野古へ移動。終日、辺野古の行動に参加。大浦湾を巡る船にも乗船。

恩納村へ移動。途中、万座毛見学。

仲西美佐子さん(恩納村出身。地元の環境・自然保護の中心メンバー)の手作り夕食をいただくとともに、自然保護・環境破壊と基地の関係についてお話を伺う。恩納村宿泊。



11/25(日)

伊江島へ移動。ヌチドゥ宝の家 反戦平和資料館見学。

伊江島が一望できるタッチュー(城山)、千人ガマ(ニヤティア洞)、団結道場、米軍演習場、新基地ゲート前など訪問予定。

夕方、那覇へ移動。道中、嘉数高台公園から普天間基地見学。那覇市内に宿泊。



11/26(月)

朝食後、那覇市内にて解散

オプションツアー

糸数アブラチラガマ、魂魄の塔、平和祈念資料館、玉城グスクなど訪問予定。

17時那覇空港解散。参加費4,000円(昼食付き)。



あるがままの自分が認められる場所

「やまなみ工房」を訪問する旅

滋賀県甲賀市にある障害者のアート施設「やまなみ工房」は単なる障害者が通い、過ごす施設ではなく、誰もがあるがままの自分として認められる場所。それ故につくられるアート作品があり、それ故にたくさんの物語がある場所です。自由な気持ちになって、「いのち」と向き合い、共生社会の在り方を一緒に考えましょう。

案内人：中津川浩章（画家／アートディレクター／フリーキュレーター）



ブルーバイオレットの線描を主体とした大画面のドローイング・ペインティング作品を「記憶・痕跡・欠損」をテーマに国内外で展覧会開催。アートによる社会変革、「できないことからつながる社会」を目指す。障害者施設工房集、アール・ド・ヴィーヴルのアートディレクション、展覧会の企画・プロデュース、大学・専門学校でアートを通したコミュニケーションスキル開発やデザイン・美術教育に携わる。福祉、教育、障害など、具体的な社会とアートの関係性を問い直しつつ、障害の有無にかかわらず、子どもから大人まで、様々な人を対象としたアートワークショップ、講演、ライブペインティング等、被災地を含む全国各地へ。

日程：10月13日～14日 1泊2日

集合：10月13日 11:30 JR草津線 甲南駅改札口付近

解散：10月14日 14:00 ボーダレス・アート・ミュージアム NO-MA 付近

訪問先：やまなみ工房、ボーダレス・アート・ミュージアム NO-MA

宿泊：水口センチュリーホテル（予定）

参加費：20,000円（宿泊費、13日昼食費、夕食・交流会費、14日朝食費含む）

※集合場所まで及び解散後の交通費は各自でご負担ください

【お申し込み・お問い合わせ】 特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター（PARC） 自由学校

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F 03-5209-3455 / office@parc-jp.org

「やまなみ工房」とは

自閉症や知的障害を持つ方々など約80名のアーティストと約20名のスタッフがともに過ごし、アート活動を行う施設。粘土や絵画に取り組む「アトリエころぼっくり」、刺繍や絵画に取り組む「こっとな」、健康のため散歩や運動に取り組みながら表現活動に取り組む「ぶれんだむ」、メンテナンス作業を中心に取り組む「もくもく」、古紙回収をはじめ様々な活動に取り組む「たゆたゆ」、CAFEを営業をする「hughug」の6つのグループに分かれて活動する。

これまでもNHK教育テレビジョンの番組『バリバラ～障害者情報バラエティー～』内でも取り上げられるほかバリ、ニューヨーク等へも作品を多数送り出している。

ウェブサイト：<http://a-yamanami.jp/>





飛び出せ！



自由学校クラブ



自由学校クラブは、「やりたい」と思った受講生有志が自主的に集まり、呼びかけ、活動の中身やスケジュールをつくっていく、いわば「自由学校の課外サークル」です。講座の枠を超えてご参加いただける場です。原則としてどなたでもご参加いただけます。

○各クラブへのお問い合わせや参加申し込みそれぞれの連絡先に直接ご連絡ください。

代々木の森で～ビオダンサ自主クラス

◎2018年 3/8、3/22、4/5、4/19、4/26、5/10、5/24 19:00～21:30

◎講師：内田佳子（ビオダンサファシリテーター）

◎参加費：1回3,000円

〈事前申し込みがおトク!!〉5回分以上まとめて事前申し込みいただける場合は参加費が1回2,500円になります

◎場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（最寄駅：小田急線参宮橋駅）

2017年度PARC自由学校で開催されたビオダンサクラス受講生の有志が、講座が開講しない期間も踊りたい！と立ち上げた自主クラスです。ビオダンサが初めての方も経験者の方も大歓迎です。単発でのご参加もできますので、ちょっと気になっていた方、お試してみたい方もお気軽にいらしてください！一緒に踊りましょう！

◎最新情報・詳細はこちらから <https://www.facebook.com/events/1550879561631776/>

※facebook内「代々木の森で2018」で検索してください。

■ビオダンサとは

ビオダンサ(biodanza)とはスペイン語で「生命のダンス」を意味します。南米チリの教育者、人類学者、心理学者のロランド・トーロ・マリオ・アラネーダが、人間の潜在力の回復をめざして構築したダンス・ワークです。

みなさんにとって、踊りとはどんなものでしょうか？あまり得意とは言えないけれど、実は、音楽に乗って自由に身体を動かしてみたい、と感じる方は、案外多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

ロランド・トーロは、踊ることが人にとって自然な衝動であることに立ち返り、シンプルで象徴的な動きをもとに、ビオダンサを編み出しました。その回ごとに集まった人によるグループの場で、生まれてくる動きや情感を、ただ、めいっぱい体験し、分かち合うことは、私たちの日々の生活や人生の長い道のりに、たくさんのヒントを与えてくれます。ダンス経験は問いません。

■お申し込み・お問い合わせ

〈biodanza2017@gmail.com〉宛に申込みメールをお送りください。

件名を「ビオダンサ代々木の森クラス申込み（日付、お名前）」とし、本文に以下の6点をご記載ください。

1. お名前
2. ビオダンサの経験有無
3. 連絡先メールアドレス
4. ご参加希望日
5. 当日つながる電話番号
6. この自主講座を知ったきっかけ（ビオダンサHP、PARC、友人から等）

※必ず前日までにご連絡ください。担当者からの返信をもって受付完了となります



高松田んぼの会

- ◎4月～10月 月1～2回(8月を除く)
◎参加費:交通費実費。車で来られる方も歓迎です。
◎場所:高松田んぼの会共同田んぼ
JR常磐線石岡駅よりバス(約20分)
◎連絡先: info@commonsonline.co.jp (大江)

高松田んぼとは茨城県石岡市にある36アールの共同田んぼです。始めた人の名前にちなんで、こう呼んでいます。この会では、米づくり全般をメンバーが協力して行ないます。農薬と化学肥料は一切使いません。田植えはすべて手植え、稲刈りはバインダーという簡単な機械と手刈りです。活動日は基本的に土日で、現地に集合して一緒に作業を行います。もちろん参加できる日で結構です。作業はベテランの方が優しく丁寧に教えてくれますので全くやったことのない人でも大歓迎です。米作りを体験したい人、半農半Xを目指す人、自然が好きな人…どなたでも気軽にご連絡下さい。

☆収穫したお米(白米/玄米/もち米)はみんなで購入できます。



サンシン テーゲー三線クラブ

- ◎基本的に月1回、19:00～21:00 ◎参加費:1回1000円 ◎場所:原則としてPARC自由学校教室
◎連絡先: 080-3080-0650 / ichimuratadafumi@gamil.com (市村)

基地問題で揺れる沖縄。平和と命を何より大切にする島の人たちは三線に思いを託します。そんな沖縄三線を弾いてみませんか。楽しく演奏し、レッスンの後にはお酒を飲みながらゆんたく(おしゃべり)しましょう。演奏会参加や沖縄への三線ツアーもあります。初めての方も大歓迎です。



クラブ・アンディーノ

- ◎基本的に月1回、金曜日19:00～21:00 ◎講師:藤田 護(慶應義塾大学環境情報学部 専任講師)
◎参加費:1回1000円 ◎場所:原則としてPARC自由学校教室 ◎連絡先: clubandino2017@gmail.com (野澤)

(調整中) 南米アンデス先住民族の言語「アイマラ語」講座がサークル活動として続きます。2017年度は、スペイン植民地初期のアンデス先住民の信仰や習慣について、ケチュア語で記された「ワロチリ文書」を読み解くため、初歩からケチュア語を学びました。各回に日本語で制作された教材でケチュア語やアイマラ語を学びます。スペイン語の予備知識は不要です。初めての参加も歓迎です。次回は4月20日(金)の開催になります。



ムビラクラブ

◎原則として月1回、金曜日19:00～21:00 ◎参加費：1回2500円（※ムビラレンタル料：500円）

◎場所：PARC自由学校教室 ほか ◎連絡先：090-9132-3602 / masa@mbirazvakanaka.com（マサ）

2014年度開講の「親指ピアノの世界へようこそ！」クラス参加者有志で続けているムビラ演奏サークルです。ムビラとは、アフリカ・ジンバブエ・ショナの人たちに伝わる伝統楽器。一定の旋律を繰り返し続け、刻まれるポリリズムに乗ってゆくことにより儀式の中で精霊と語る為の通信機器でもあります。関東近郊の他ムビラサークルとの交流や、時折「セブンデイズ」の名でライブ出演もあります（セブンデイズ：ジンバブエで儀式の際に回し飲みされる醸造酒の名前）。初めての方でもレンタルムビラをご用意することが可能です。まずはお気軽にお問い合わせください。



戦後史を学び、展望を模索する会

◎原則として月1回、月曜日19:00～21:00 ◎場所：原則としてPARC自由学校教室

◎連絡先：office@parc-jp.org（PARC事務局）

2007年の『検証戦後史』のクラスから生まれた読書会です。戦後72年、戦争の経験などなかったかのような日本の現実が目の前にあります。日本人の戦後は終わっていないのではないか。突き詰めて言えば、私たちは戦争の素顔と未だに向き合っていないのではないか。さまざまなテキストを通じ、ときには著者も招いて一緒に議論する中で、私たちは、「戦争」と「戦後」が、今でも私たちにとって基本問題だと考えています。このクラブは誰にでも開かれた小さな集まりです。たとえ拙くても自分の言葉で話すこと、正直な議論を交わす場であることを願っています。

現代短歌を読む・詠む

◎原則として毎月第2月曜日13:30～ ◎講師：久々湊 盈子（歌人／千葉県歌人クラブ会長／現代歌人協会会員／歌誌「合歓」発行人／「東京新聞・千葉版」歌壇選者）歌集『あらばしり』『鬼龍子』『世界黄昏』など9冊

◎参加費：月2,000円 ◎場所：原則としてPARC自由学校教室

◎連絡先：047-347-5163 / nemunokai@mse.biglobe.ne.jp（久々湊）

短歌を作るということは、すなわち、自分を考えることです。言葉を考え、社会を考え、生きている意味を考えることです。すぐれた短歌を読み、自己表現の手段として短歌を作ってみませんか。まったく初めてという方も大歓迎です。



～パルシックの民際協力の現場で～

人と暮らしに出会う旅

パルシックの民際協力事業の現場で、人びとと触れ合い、体験し、文化や歴史を学びます。2018年度は4つの旅を開催します。事業担当者がご案内しますので、お一人様でのご参加も大歓迎です！

現地プログラム企画：特定非営利活動法人 パルシック／旅行企画：株式会社 風の旅行社／受託販売：株式会社 ピース・イン・ツアー

東ティモール アイナロ県

美味しいコーヒーに出会う旅

- ・開催日：2018年8月中旬 8日間（予定）
- ・旅行代金：調整中（2016年度実績：283,000円）

毎年人気のフェアトレードコーヒー生産者を訪ねるツアー。標高1,300メートルの山々に囲まれたアイナロ郡マウベシ郡のコーヒー農家を訪ね、コーヒー豆の収穫、加工作業を手伝い、農家宅での民泊を体験します。新鮮なコーヒーを飲み、生産者と語り合います。



スリランカ 南部 マータラ県 デニヤヤ

フェアトレード紅茶 有機農業を支えるボランティアツアー

- ・開催日：2019年3月16日（土）～3月24日（日） 9日間（成田発着）予定
- ・旅行代金：調整中（昨年の実施例：223,000円）

インド洋に浮かぶ光り輝く島、スリランカ。その豊かな自然の中で、紅茶栽培の有機転換に取り組む小規模農家。シンハラージャ森林保護区に隣接する茶畑で、地域の自然や人びとの安全を守るための、持続可能な仕組みづくりを共に応援しませんか。紅茶農家にホームステイし、人びとの暮らしに触れながら、学び、農作業のボランティアをする旅です。



マレーシア ペナン、イポー

多民族文化を学び、マングローブを植える旅

- ・開催日：2018年12月24日（月）～12月30日（日） 7日間
- ・旅行代金：調整中（昨年の実施例：189,000円）

経済発展と多民族多文化共生社会を模索しつづけるマレーシア。人びとが織りなす歴史と文化を体験し、食する旅です。ペナンの小さな村で伝統的な漁法を生業にしてきたマレー系漁民が、破壊された漁場と環境を回復するためにマングローブ植林を始めました。植林を体験し、自然と人の共生を考えます。



石巻市北上町

石巻市北上町を訪れるツアー

- ・開催日：2018年11月 2泊3日（仙台駅集合・解散／予定）
- ・旅行代金：調整中（昨年の実施例：36,000円）（仙台駅集合・解散）

2011年から復興支援をしてきた石巻市北上町十三浜は、地域の人びとの知恵や文化が溢れ、漁村の豊かな自然があります。十三浜の漁師さんの作業を手伝い、地元の人のお話を聞いて交流します。十三浜の美味しい海産物も堪能できます！



※ツアー日程、旅行代金は変更になる場合があります。お申込前にお問い合わせください。各ツアーの詳細は、次ページの連絡先へお問い合わせください。

国際協力とフェアトレードのパルシック

パルシック(PARCIC)は2008年4月にPARCが組織分割をして誕生したNPO法人です。国境を越えて、人と人が信頼に基づき協力する「国際協力活動」を、東ティモール、スリランカ、パレスチナ、トルコやレバノンで展開しています。事業を通じて商品化したフェアトレード商品も販売しています。

1Fパルシック事務所にお立ち寄りください

パルシックのフェアトレード商品(東ティモール産コーヒー、ハーブティー、スリランカ産紅茶)を、自由学校教室の1階、パルシック事務所で販売しています。ラッピングしたギフトセットやお手土産もすぐにお渡しできます。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

・営業時間：10:00～19:00頃(土日祝休)



新商品のルフナ紅茶



東ティモールコーヒー

【ご寄付のお願い】レバノンのシリア難民の子どもたちに給食を！

シリア難民の子どもたちの成長と未来を共に支えるために、寄付のご協力をお願いいたします。

パルシックは、教育を受ける機会を奪われてしまったシリア難民の子どもたちが教育を受けられるよう、ベカー県バレリアスにて教育センターを2017年10月に開校しました。わずかな収入で暮らすシリア難民世帯は、子どもに学校で食べる食事を持たせることは容易ではありません。教育センターに通う生徒たちが空腹でない状態で授業を受けられ、発育を支える栄養が毎日とれるようになるために、皆さまのご協力が必要です。

子どもたちが未来への希望を持って生きていく手助けのために、ご寄付をよろしくお願いいたします。

※パルシックは税控除の対象となる認定NPOです。



寄付送付先

- 銀行振込 口座名義人：特定非営利活動法人パルシック
 - ・ゆうちょ銀行からの場合：ゆうちょ銀行 記号:10180 番号：77335011
 - ・ゆうちょ銀行以外からの場合：ゆうちょ銀行 店名：〇一八 店番：018 預金種目：普通預金 口座番号：7733501
- 郵便振替 口座名：緊急支援 振替口座：00100-9-296658 特定非営利活動法人パルシック (PARCIC) <http://parcic.org>

●クレジットカードでの
ご寄付はこちら



https://parcic.org/report/syrian-refugees/lebanon_education/12571/

◎オンラインショップ パルマルシェ：<http://parmarche.com>

parcic parcic_office parcic_tokyo

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1F
Tel. 03-3253-8990 / Fax. 03-6206-8906 / Email：office@parcic.org

〈お申し込み・お問い合わせ〉特定非営利活動法人パルシック



STEP1:お申し込み

1)お名前、2)ご連絡先、3)ご希望されるクラス、4)過去の受講経験等をご連絡ください。

ウェブサイトからのお申し込み

<http://www.parc-jp.org/freeschool/index.html>

電子メールでのお申し込み

office@parc-jp.org

ハガキ、電話、FAXでのお申し込み

〒101-0063
 東京都千代田区
 神田淡路町1-7-11 3F
 TEL:03-5209-3455
 FAX:03-5209-3453

PARC事務局で直接お申し込み

〒101-0063
 東京都千代田区
 神田淡路町
 1-7-11 3F

STEP2:お申し込み内容の確認

ご入金前にお申し込み内容の確認をし、ご希望されるクラス、ご連絡先など間違いがないかご確認ください。
 万が一間違いがあった場合はお電話・メールなどでPARC事務局までお知らせください。

お申し込み確認画面で表示された内容をご確認ください

※画面に表示された内容は電子メールでもお送りいたします

お申し込み内容の確認とともにご入金の案内を電子メールにてお送りいたします

お申し込み内容の確認とともにご入金の案内を郵送・あるいはFAXでお送りいたします

その場で担当者とお申し込み内容の確認をします

STEP3:ご入金

ご入金の案内に沿ってご入金ください。クレジットカードのご利用はウェブサイトでのお申し込みの場合のみご利用いただけます。お申し込み内容の確認後、2週間以内にご入金いただけない場合はキャンセルとみなす場合がありますのでご注意ください。

申し込み画面にてクレジットカードで決済

※VISA、MASTERCARDのみご利用いただけます

お申し込み内容の確認後、2週間以内に郵便局またはゆうちょ銀行にてご入金ください

その場で現金でお支払いいただけます

受講登録完了

ご入金を確認できた時点で受講登録手続き完了となります。

なお、入金確認のご連絡や受講登録証書の発行などは行っておりません。領収証の発行をご希望される方はご入金後にPARC事務局までご連絡ください。

受講登録完了

開講2週間前に講座の成立・不成立に加えて、初回の案内をメール・郵送にてお送りいたします。

なお、一度ご入金いただいた受講料は講座不成立の場合を除き払い戻しできませんのでご了承ください。

自由学校入学金について

自由学校を初めて受講される方は、受講料の他に入学金10,000円が必要です。

(PARC自由学校の入学金はPARC会員の会費ではありませんのでご注意ください。)

入学金・受講料とも原則として一括でお支払いください。

お支払いいただいた入学金・受講料は、講座不成立の場合を除き、払い戻しできませんのでご了承ください。(消費税はすべて内税です。)

PARC自由学校のシステムについて

○自由学校入学金って？

PARC自由学校を初めて受講される方は、受講料の他に入学金10,000円が必要です。一度PARC自由学校に入学登録された方は以降の年度での入学金は不要です。入学金をお支払いいただいた方には毎年受講申し込み受付を開始した時期にパンフレットの郵送やメールにてご案内いたします。

○単発受講はできるの？

原則として、PARC自由学校に通して受講登録いただいた方とPARC会員の方のみ、単発受講が可能です。自由学校では自分の申し込んだクラス以外で関心があるクラスの講義を単発で受講することができるサービスとしてこれを「越境受講」と呼んでいます。パンフレットやウェブサイト、メールでのお知らせなどを見て「ぜひ受けてみたい」というクラスがありましたら、メールや電話でお申し込みの上、当日一回分の越境受講料をお支払いいただきご参加ください。

※ことばの学校など、一部越境受講できないクラスがあります。詳細につきましては事務局までお問い合わせください。

その他

○自由学校のクラスを申し込むと何かサービスや特典があるの？

連続講座を一講座お申し込みにつき、特典として他のクラスを一回無料で単発受講できる「越境チケット」を一枚プレゼントいたします。ぜひご利用ください。

○欠席して講義を聞きそびれた！

「欠席した回の配布資料がほしい」「出席したがもう一度聞き返したい」「資料をなくしてしまった」という方のために、講義の音声は毎回録音しており、音声ファイルと配布資料をクラス受講生専用ウェブページからダウンロードすることができます。ご都合により参加できなかった場合や復習などにぜひご利用ください。

※出かける回や外での作業中心のクラスなど録音されないクラスもあります。

*受講料の一括納入が困難な方は、事務局までご相談ください。場合によっては分割納入などご相談に応じます。*PARCの諸活動をお手伝いいただくこと(25時間以上)で、入会金が免除になる制度もあります。

*このパンフレットを送ってほしいお友達などご紹介いただければ、こちらから郵送にてお送りいたします。TEL・FAX・ハガキ・Eメールにてお知らせください。

受講を申し込みたい方は

ウェブサイトから、または電話・メール・FAXで必要事項をご記入の上、お申込みください。※52ページの「受講登録の流れ」も併せてご覧ください。

申し込み締切：2018年5月8日（火）必着

お申し込み後、請求書と郵便振替用紙をお送りしますので、郵便局でお支払いください。ウェブサイトからのクレジット決済も可能です。

受講料のお支払いをもってお申し込み手続きの完了となります。先着順で定員に達し次第締め切りますので、お早めにお申込みください。

アジア太平洋資料センター (PARC) PARC自由学校

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F Tel:03-5209-3455 Fax:03-5209-3453 Email:office@parc-jp.org

郵便振替 00100-2-606697 PARC自由学校 ゆうちょ銀行 ○一九支店 (019) 当座口座 0606697 PARC自由学校

このハガキを切り離して郵送(切手不要)、またはFAXでお送り下さい。5月9日(火)必着

キリトリ線

キリトリ線

自由学校受講申込書

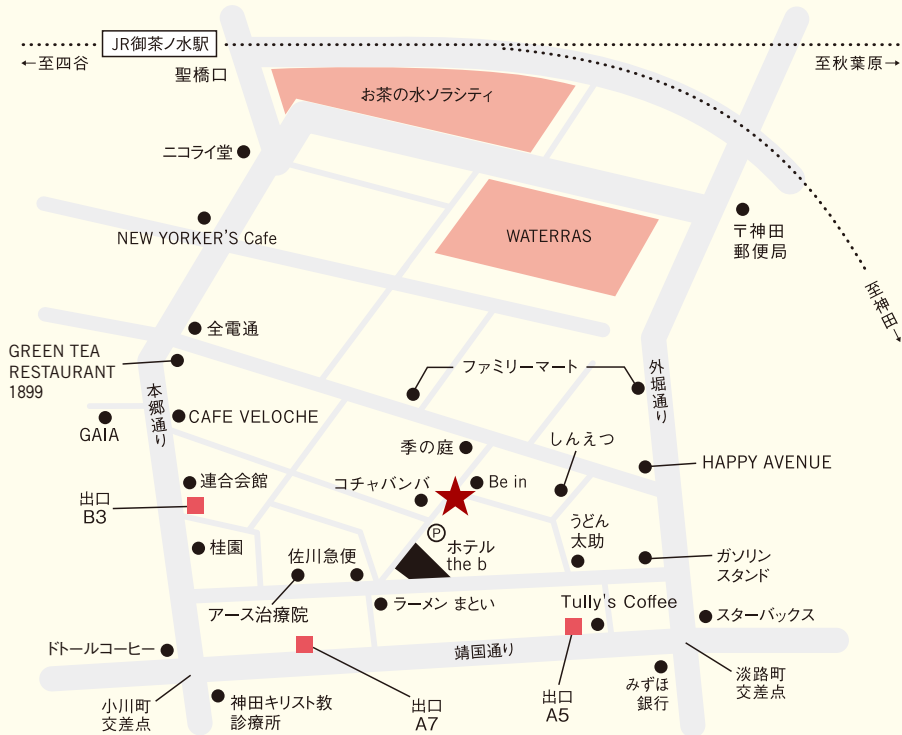
クラスNo.	クラス名
フリガナ	
お名前	
性別 男・女	生年月日 19 年 月 日
ご住所 〒	
TEL	FAX
携帯電話	
必須(メールのない方はその旨ご記入下さい) E-mail	
その他の連絡先(急な休講時のご連絡のため) TEL	

- 自由学校への参加は
 1. はじめて
 2. 以前受講していた (年 クラス)
- PARC会員ですか
 1. はい
 2. いいえ
- 自由学校をどのようにして知りましたか
 1. 新聞・雑誌で(メディア名)
 2. 友人・家族・知人から聞いて
 3. 集会・イベントで(集会・イベント名)
 4. 置いてあったパンフレット・リーフレットを見て (置いてあった場所)
 5. パンフレットが送られてきたから
 6. Eメールで(メーリングリスト名など)
 7. PARCホームページ、またはtwitter・Facebookを見て
 8. 他のホームページを見て(サイト名)
 9. その他()
- ご職業
 1. 会社員
 2. 公務員
 3. 自営業
 4. アルバイト/パート
 5. 主婦/夫
 6. 学生
 7. その他()

●地下鉄A5出口から徒歩2分

都営新宿線「小川町」 東京メトロ丸ノ内線「淡路町」または千代田線「新御茶ノ水」 ※いずれの駅も地下でつながっています

●JR「御茶ノ水」聖橋口から徒歩6分



お友達をご紹介いただければ
パンフレットをお送りします。

お名前

ご住所

ここ1、2年で住所を変更された方は
旧住所をご記入下さい。

旧住所

差出有効期間
2018年
10月31日まで

2750

料金受取人
神田承認

東京都千代田区
神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F

アジア太平洋資料センター
PARC自由学校 行



郵便はがき
101-8791
014